

リアホナ

^み ^{たま}
御霊によって
学ぶ、
16ページ

^{あかし}
証を土台として決断する、
10ページ

大人のための
初等協会のレッスン、
39, 42ページ

預言者があなたに
語りかけたら、
「フレンド」2ページ

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・パッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オックス, M・ラッセル・バラー, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン

編集長: ジェイ・E・ジェンセン

顧問: ゲーリー・J・コールマン, 菊地良彦, ジェラルド・N・ランド, W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ビクター・D・ケーブ

主任編集者: ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長: ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: クリスティー・バンズ, リンダ・ステール・クーパー, デビッド・A・エドワーズ, ラリー・ポーター・ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディ, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ジョシュア・J・パーキー, キンバリー・リード, リチャード・M・ロムニードン・L・サル, ジャネット・トーマス, ホール・バンデンバーグ, ジュリー・ワーデル

主任秘書: ローレル・トイスチャー

マーケティング部長: ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター: M・M・カワサキ

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ: カリ・R・アロヨ, コレット・ネバカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンソン, デニス・カービー, ギニー・J・ニコルソン, ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター: クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター: ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所: 末日聖徒イエス・キリスト教会 〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30 電話: 03-3440-2351

定 価: 年間予約/海外予約 1,800円(送料共) 半年予約 1,200円(送料共) 普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。 Room 2420, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3220, USA 電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ウルドゥー語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリジャ語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, ビスマラ語, ヒンディー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マンダリン語, マダガスカル語, モンゴル語, トロピカル語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷: 日本 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。 「リアホナ」は、教会のホームページ www.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

September 2008 no. 9 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



一 般

- 2 大管長会メッセージ——一つとなりなさい ヘンリー・B・アイリング管長
- 16 熱心に学ぶ力 ジェイ・E・ジェンセン長老
- 21 黒板, 教えるための道具 ロブ・ジョーンズ
- 25 家庭訪問メッセージ——
イエス・キリストの福音は、神の子供たちの持つ永遠の可能性について教えている
- 26 末日聖徒の声
あきらめませんでした カルロス・A・デル・ロンゴ
家族歴史の思い出 スティーブン・C・ヤング
フィンランドでの探求 ジュディス・アン・ラウルネン・マクニール
母の日記 エドナ・F・チャンドラー
- 36 モルモン書からの教訓——主に目を向ける メアリー・N・クック
- 39 祝福を与えてくれた初等協会の歌 ジェニファー・A・リン
- 42 自分の役割を果たすなら、後は神様がしてくださるのよ
ジェニー・ビデリト・デ・ラ・マサ
- 48 読者からの便り

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることが出来ます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「知識を求めながら信仰を強める」10ページ——家庭の夕べで食べる

ごちそうを作りながら、この記事について学びます。ごちそうを作るのに使う食材を家族に一つずつ割り当てます。それぞれの食材が大切であるということ、また、一つ一つが料理をおいしくするだけでなく、なくてはならないということについて話し合います。料理をし

ながら、記事にある5つの原則の一つ一つがどのように重要で、わたしたちの生活を向上させてくれるかについて話し合しましょう。

「熱心に学ぶ力」16ページ——ジェイ・E・ジェンセン

長老がボイド・K・パッカー会長から学んだ、4つのポイントを読みます。より良い学習者になるうえで、それぞれのポイントをどのように役立てることができるかを話し合しましょう。より良い学習者になるために、これらのポイントを生かして何かを实践するという目標を立てるよう家族に勧めます。



こんげつごう かく
 今月号のどこかに隠れている
 オランダ語のCTRリングを捜しながら、
 祈ることは正義を選ぶときに
 どのように役立つかを考えてみましょう。



F11 いろ
 色をぬりましょう



青少年

- 8 まさに適任です ジョー・ピンガム
- 10 知識を求めながら信仰を強める クエンティン・L・クック長老
- 15 ポスター——どちらの陣営で戦いますか。
- 24 ジョセフの教え——啓示と生ける預言者
- 31 教えに教え——マタイ5：14-16
- 32 ローマに入りては……これらのローマ人に従え
 ジェニファー・マディー
- 44 世代から世代へ アダム・C・オルソン

10 知識を求めながら
 信仰を強める



「世代から世代へ」44ページ——紙に次の聖句を一つずつ書き、入れ物の中に入れます。1ニーファイ8：12-18；1ニーファイ10：17；1ニーファイ15：6-11；モーサヤ17：1-4；モーサヤ18：1-3。入れ物を家族に回し、1枚ずつ取り出して、聖句を声に出して読んでもらいます。すべての聖句を読み終えるまで続けます。これらの聖句に共通する事柄は何か尋ねます。福音を世代から世代へと伝えることの大切さについて話し合います。

「兄と子犬」F12ページ——家族の一人一人に子犬の写真を渡します。犬がだれに忠実であったか、それはなぜかを考えるように言ってから、記事にある犬の話を読みます。家族同士で忠実であるための方法について話し合います。これからの1週間で、家族のだれかが親切なことをしたら、だれが親切なことをしたかが分かるよう、配っておいた子犬の写真をその場所にはります。家庭の夕べで、どんな親切な行いがあったかを振り返りましょう。

フレンド

- F2 預言者の声——
 ミスティへのメッセージ
 トーマス・S・モンソン大管長
- F4 分かち合いの時間——
 お父さま、いのりを聞いてくださるの？
 リンダ・クリステンセン
- F6 よげんしゃジョセフ・スミスのしょうがいから——
 ジョセフとエマのしれん
- F8 グラント大管長の模範 ハイディ・ローズ
- F10 ちいさなみんなのために——かぞくのおいのりの時間
- F11 色をぬりましょう
- F12 小さなお友達へ——兄と子犬
 キース・R・エドワーズ長老
- F14 友達になろう——仲良しになるための秘密



F14 なかよ ひとみつ
 仲良しになるための秘密

表紙

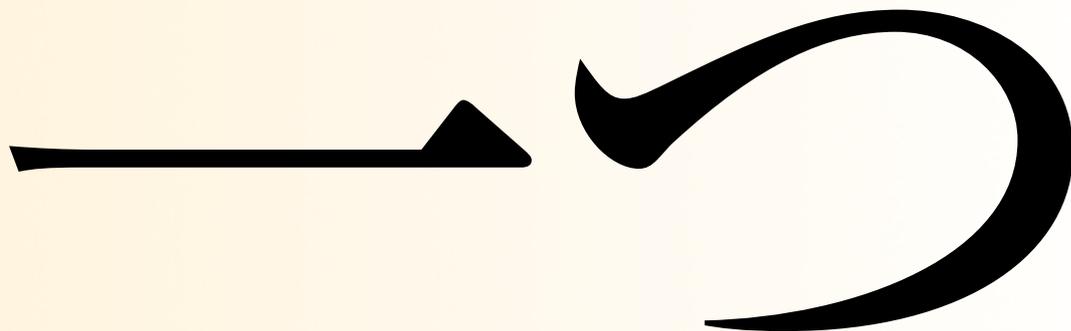
表紙——
 写真加工/ジェリー・カーンズ
 裏表紙——
 写真加工/
 スティーブ・バンダーソン。
 本の写真/
 ウェルデン・C・アンダーセン

「フレンド」表紙
 絵/ジム・マドセン

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	初等協会, 39, 42
愛, 2, F12	試練, 36, F6
あかし 証, 39, 44	神殿, 32
あがな 贖い, 2, 10	スミス, ジョセフ, 24, F6
イエス・キリスト, 2, 31	成長するわたし, 8
一致, 2	聖霊, 2, 16
祈り, 16, F4, F10, F11	選択, 10, 15
教えること, 1, 8, 21	選択の自由, 15
音楽, 39	知識, 10, 16
学習, 16, 21, F8	伝道活動, 32, 42
家族, 2, 25, 44, F10, F12, F14	日記, 29
家族歴史, 26, 27, 28, 29	扶助協会, 25
可能性, 25	ホームティーチング, 2
悔い改め, 10	模範, 31
啓示, 24	モルモン書, 10, 36, 44
黒板, 21	勇気, 36
山上の垂訓, 31	預言者, 10, 24, F8
祝福, F4	靈感, 16, F2



となりなさい



大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

世の救い主イエス・キリストは、主の教会に属する人々にこう言われました。「一つとなりなさい。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない。」(教義と聖約38:27) 男女が創造されたとき、結婚によって一つとなることが、ただ神が望まれたこととしてではなく、戒めとして与えられました。「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:24) 天の御父はわたしたちが心一つにするように望んでおられます。この愛における一致は、単なる理想ではありません。必要不可欠なものなのです。

一つになりなさいという要求は、この世だけのものではありません。終わりがありません。最初の結婚は、アダムとエバがエデンの園で死の支配を受けていなかったときに、神によって行われました。神は創世の初めから、男女が夫婦として結び合い、義になつた完全な一致の中で永遠の家族になりたいと望むようにされました。また、神の子供たちが、すべての人と平和に暮らしたいと願うようにされました。

しかし墮落によって、一致した生活が簡単ではないことが明らかになり、間もなく悲劇が起

こりました。カインが弟のアベルを殺したのです。アダムとエバの子供たちは、サタンの誘惑を受けるようになりました。サタンは憎しみをもって巧妙に目的を達しようとしています。サタンの目的は天の御父と救い主の目的とは正反対です。神は完全な一致と永遠の幸福を与えてくださいます。神とわたしたちの敵であるサタンは、創世の以前から救いの計画を知っていました。永遠の命だけが神聖で喜びにあふれた家族関係を永続させることも知っていました。サタンは家族を引き裂いて、惨めな状態にしようとしています。人の心に不和の種をまいて、分裂を起こさせようとするのはサタンなのです。

だれでもある程度、一致と分裂の両方を経験しています。家庭や、あるいはほかの場所で、人のために自分のことを後回しにする愛と犠牲の精神を目にすることがあります。まただれでも、ある程度の仲たがいや孤独の悲しみや寂しさを知っています。どちらを選ぶべきか助言は要りません。分かっているからです。しかしわたしたちは、この世で一つとなれるように、そして来るべき世でも永遠に一致した関係を持つにふさわしくなるように、願ひ求める必要があります。また、何をすべきか知るために、この偉大な祝福がどのようにしてもたらされるか理解する必要があるのです。

わたしたちは、
この世で
一つとなれるように、
そして来るべき世でも
永遠に一致した関係を持
つにふさわしく
なるように、
願ひ求める必要があり
ます。
また、何をすべきか
知るために、
この偉大な祝福が
どのようにして
もたらされるか
理解する必要があり
ます。



聖餐の 祈りが 毎週

思い起こさせて

くれるように、

一致の賜物は

イエス・キリストの福音の

律法と儀式に

従うことによって

もたらされます。

性質は変わる

世の救い主は、一つになることと、そのために自分を変える方法について話されました。この世を去る前に、使徒との最後の集まりで祈りをささげ、その中ではっきり教えられたのです。その神聖で美しい祈りは、ヨハネの福音書に記録されています。すべての人が永遠の命を得られるように、恐ろしい犠牲を払う時が近づいていました。主はまさに、御自身が聖任し、愛し、教会を導く鍵を託した使徒たちのもとを離れようとしておられました。そこで主が天の御父に、完全な御子が完全な御父に、祈られたのです。その言葉から、家族が一つとなり、救い主とその僕に従うすべての天の御父の子供たちが一つとなる方法が分かります。

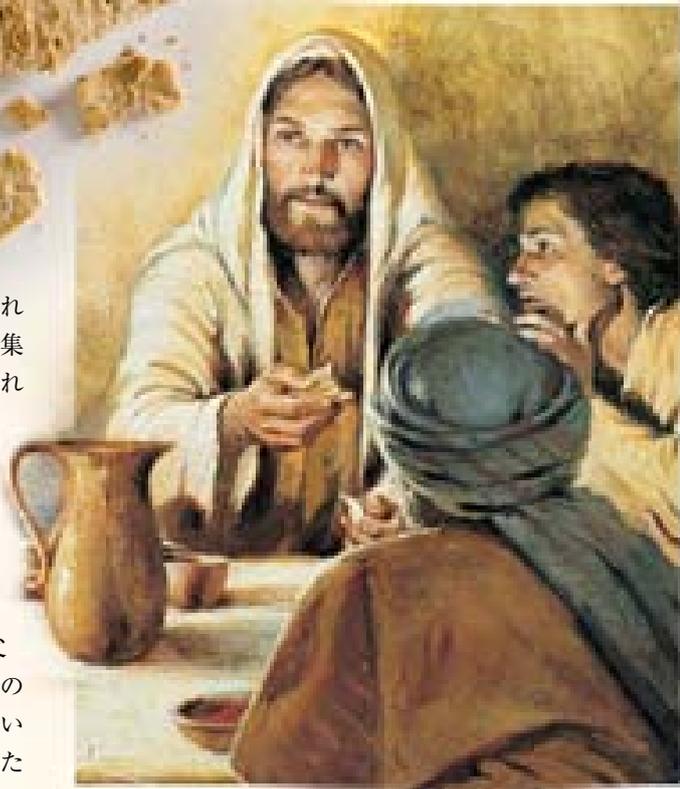
「あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。

また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。

わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。

父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17:18-21)

このわずかな言葉の中で、主はイエス・キリストの福音がいかに人々の心をつなげるか明らかにされました。主の教えられた真理を信じる人々は、権能を持つ僕から儀式と聖約を受けることができます。そして、儀式と聖約に対する従順を通して、自らの性質が変わるのです。このように救い主の贖いによって、わたしたちは聖別されます。わたしたちは、ぜひとも一致した生活を送るべきですが、このような過程を通してそれが可能になるのです。そして、この世では平和を得て、永遠の世では御父と



御子とともに住めることでしよう。

当時の使徒や預言者たちの務めは、今日と同じように、アダムとエバの子孫をイエス・キリストを信じる信仰の一致に至らせることでした。彼らが教えたことも、わたしたちが教えることも、その究極の目的は家族が一つになること、すなわち夫、妻、子供、孫、先祖、そしてついには、一致の道を選択するアダムとエバのすべての家族が一つになることです。

皆さんも覚えているように、救い主は、使徒たちが「真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします」と祈られました(ヨハネ 17:19)。聖霊は聖別する御方です。聖霊を伴侶にできるのは、主が預言者ジョセフ・スミスを通してメルキゼデク神権を回復されたからです。神権の鍵は今地上にあります。その力によって、わたしたちは聖約を結び、聖霊を常に伴侶とすることができるのです。

御霊があれば、わたしたちに一致がもたらされるでしょう。御霊はわたしたちの心に真理の証を告げて、その証を共有する人々をつなげます。神の御霊は決して争いを起こしません(3ニーファイ 11:29参照)。また、不和のもとに

なる差別感情をもたらしません。¹ 注意して御霊に従うなら、平安と一体感が生まれます。心が一つになるのです。一致した家族、一致した教会、平和な世界は、心の一致により生み出されるのです。

聖霊を伴侶とする

子供も、聖霊を伴侶にするために何をすべきか理解できます。聖餐の祈りが教えています。聖餐会に出席して毎週聞く祈りです。この神聖なひとときに、わたしたちはバプテスマで交わした聖約を新たにします。すると主は、教会員に確認されたときの、聖霊を受けるという約束を思い起こさせてくださいます。聖餐の祈りにこうあります。「進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守[り]……、いつも御子の御霊を受けられるように……。」(教義と聖約20:77)

わたしたちはこの聖約を守ることによって御霊を受けることができます。第1に、主の名を受けると約束します。すなわち、自分を主のものに見なすのです。生活の中で主を最優先します。自分の望みや、世の中が望ましいと教えるのではなく、主が望まれることを求めるのです。この世の事柄を何よりも先に愛しているかぎり、平安はありません。家族や国家が物質的なものによって快適な生活を得ることを理想としても、結局は分裂に終わってしまいます。² しかし、主が望んでおられることを互いに行うことを理想とするならば、これは主の名を受けた人の自然な行為ですが、やがてわたしたちは地上における天国のような霊的な状態に達することができるでしょう。

第2に、いつも主を覚えると約束します。わたしたちは主の名によって祈る度に主を覚えます。特に頻繁にしなくてはならないことですが、わたしたちは赦しを求めるときに主を覚えるのです。このとき、悔い改めと赦しを可能にした主の犠牲を思い起こすのです。また嘆願するとき、天の御父との仲保者である主を思います。

そして、赦しや平安がもたらされたとき、主の忍耐と永遠の愛を心に刻むのです。このように主を覚えるとき、わたしたちの心は愛で満たされます。

わたしたちはまた、家族で祈るときや聖文を読むときに、主を覚えるという約束を果たします。朝食のテーブルを囲んだ家族の祈りで、その日に試験や人前での発表を控えた子供のために、そのきょうだい祝福を求めることができます。そして祈りがかなうと、祝福された子供は朝感じた愛と、その御名により祈りがささげられた、弁護者である主の優しさを忘れないでしょう。心が愛で結ばれるのです。

主を覚えるという聖約は、家族で聖文を読むときにも守っています。聖文は主イエス・キリストを

証あかししています。それが現在も過去も、常に預言者たちのメッセージだからです。子供はたとえ書かれている言葉を覚えていなくても、聖文の真の著者イエス・キリストのことは忘れないでしょう。

第3に、聖餐を取るとき、すべての戒めを守ると約束します。大管長会顧問であったJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長(1871-1961年)は、総大会の説教で何度となく一致を呼びかけ、何に従うかを自分の好みで決めてしまうことについて、次のように警告しました。「主は無駄なものや不必要なものは何一つ与えておられません。主は聖文を、わたしたちが救いを得るためになすべきことで満たされました。」

クラーク管長はさらにこう続けています。「聖餐を取るとき、わたしたちは主の戒めを従順に守ると聖約します。これに例外はありません。どの戒めの方がより大切だといった区別や違いはありません。」³ クラーク管長は、悔い改めるのはたった一つの罪でなく、すべての罪であるのと同じように、わたしたちはすべての戒めを守ることを聖約すると教えています。難しそうに聞こえますが、簡潔です。ただ救い主の権能に従い、主が命じられることすべてに従順であると約束します



左から一写真、ウエルデン・C・アンダーセン。わたしの説教の1の一部、ウォルター・レーン画。教会歴史美術館の厚紙に於ける挿絵。写真加工/ロバート・ケシー、マシュー・ライナー、クレイク・ダイモン

(モーサヤ3:19参照)。家族として、教会として、天の御父の子供として、わたしたちを一つにしてくれるイエス・キリストの権能に従うのです。

主は預言者を通して、謙遜な僕に権能を授けられます。すると、信仰を示すことにより、ホームティーチャーや訪問教師といった召しが主の務めになるのです。主の指示により、主に代わって行きます。天の力を受けた普通の男性と10代の後輩同僚が家庭を訪れ、家族が一致して、かたくなになることや偽り、陰口、悪口がないようにします(教義と聖約20:54参照)。主がこれらの僕を召されるという信仰があれば、不完全な彼らから改善点を指摘されたとしても、彼らの弱い部分が気にならなくなるでしょう。人間としての弱点よりも、善意がはっきりと見えてくるでしょう。怒る気持ちよりも、その人たちを召してくださった主への感謝の気持ちがわき上がってくるのです。

一致を妨げるもの

戒めの中には、守らないと一致が乱れてしまうものがあります。何を話すか、また相手の言葉にどう対処するかについての戒めです。人を悪く言うてはなりません。互いの良い点を見て、できるだけ良いことを話すのです。⁴

同時に、神聖なものを軽視する人に対しては、自分は同じような態度を執らないということを示さなければなりません。神聖なものへの侮辱の結果として、御霊を遠ざけ、争いや混乱が確かに起こるからです。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、争うことなく自分の意思をきちんと伝える方法を教えています。病院のストレッチャーで運ばれていたとき、何かに腹を立てた付き添いの人が主の名をみだりに口にすることを聞いてこう言ったのです。

「お願いします。やめてください。あなたがののしっているのはわたしの主の御名なのです。」

辺りは静まり返りました。そして押し殺したようなささやき声が聞こえました。「すみません。」⁵ 靈感と愛にあふれた叱責により、一致をもたらすことができます。しかし、聖霊に導かれたときに行わないと、争いを招くことになるでしょう。

一つとなるためには、感情のコントロールについて守るべき戒めがあります。わたしたちは、傷つけられても、相手を赦し、決して悪意を抱いてはならないのです。救い主は十字架の上で模範を示されました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34) 傷つける人がどのような気持ちでそうしているの

かは、わたしたちには分かりません。また自分の怒りや心の痛みの原因が何であるか、そのすべてを知っているわけでもありません。使徒パウロは、自分自身を含め、世の不完全な人々をどのように愛するかを教えてください。「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。」(1コリント13:4-5) それからパウロは、自分の過ちを忘れて人の過ちを責めることに対して重大な警告を与えています。「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今

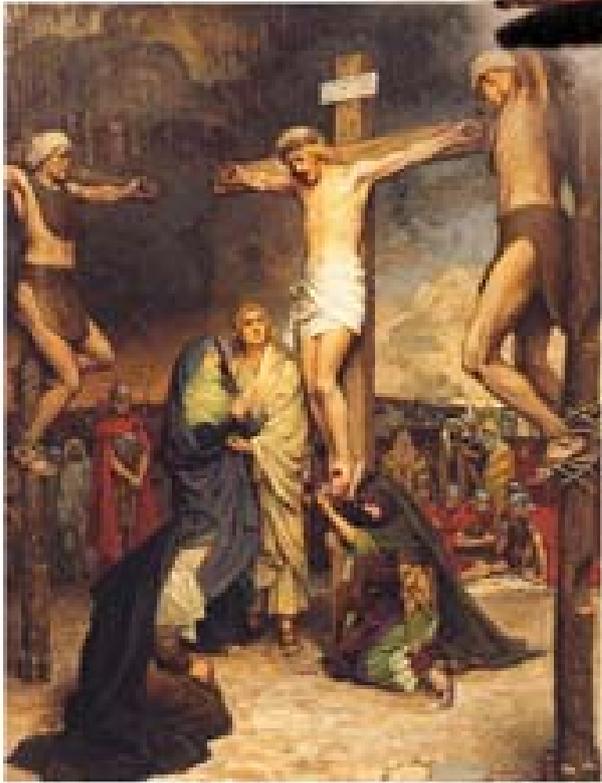
ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたがたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 別々の紙に、毎週聖餐を取るときにする3つの約束を書く。1枚ずつ手に取って見せ、書かれている約束の意味について、またどのようにその約束を果たすことができるかを話し合う。

2. 訪問の前に、ハートの形の紙を3つに切り分け、それぞれに「変わる」「伴侶」「信仰」と書いておく。最初に、わたしたちは一致し、心を一にしなくてはならないと伝える。次に、「変わる」の紙片をテーブルなどの上に置き、わたしたちの性質を変えるという言葉を通してアイリング管長が伝えたいことを読むか、または説明する。家族に「変わる」ことの例を挙げてもらう。ほかの二つの紙片についても同じことを繰り返す。ハートの形が出来上がったら、家族が心を一にするにはどうすればよいか尋ねる。

3. 冒頭から「性質は変わる」の最後までを抜粋して読むか、または家族に読んでもらう。それぞれが違う人間である家族が、どのように一つになることができるか話す。1本の糸は簡単に切れるが、多くの糸をよると強くなることを実演する。家族は一致すると強くなることを強調する。



心の和らいだ家族や人々が一つになると、大きな力がもたらされます。やがてその力によって世の中から評価されるようになります。賞賛を受けたり、うらやましがられたりすると、わたしたちは高慢になるかもしれません。高慢は御霊を妨げます。しかし不一致の源である高慢を防ぐ方法があります。それは、神が与えてくださる恵みを、主の愛のしるしとしてだけでなく、周囲の人と行うさらに大いなる奉仕の機会としてとらえることです。夫婦は似ている点からお互いを理解し、異なる点から補い合っ、互いや周囲の人に奉仕していくことで、一致できるようになります。同じようにして、わたしたちは、教会の教義を受け入れなくても、わたしたちと同じように天の御父の子供たちを祝福したいと願う人々と一致することができます。

わたしたちは「平和をつくり出す人」になって、祝福された神の子と呼ばれるにふさわしくなれるのです(マタイ5:9参照)。

父なる神は生きておられます。御子イエス・キリストは教会の頭であられます。それを受け入れるすべての人に、主は平和の旗を下さいます。わたしたち皆がその旗を掲げるのにふさわしく生活できますように。■

注

1. ジョセフ・F・スミス, *Gospel Doctrine* (1939年), 第5巻, 131参照
2. ハロルド・B・リー, *Stand Ye in Holy Places* (1974年), 97参照
3. Conference Report, 1955年4月, 10-11
4. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1967年10月, 7-8参照
5. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』157

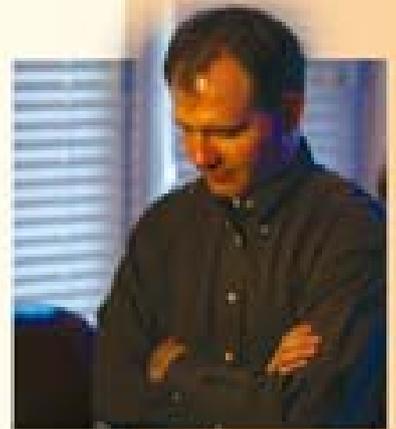
は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。』(1コリント13:12)

聖餐の祈りが毎週思い起こさせてくれるように、一致の賜物はイエス・キリストの福音の律法と儀式に従うことによってもたらされます。主の名を受け、いつも主を覚え、すべての戒めに従うという聖約を守るとき、主の御霊を伴侶として受けるのです。それによって心は和らぎ、わたしたちは一つとなります。しかし、この約束には二つの警告があります。

まず、聖霊は、わたしたちが清い状態で、この世のものに執着していないときにしか一緒にいてくさいません。わたしたちを汚す選択は、聖霊を追い出します。御霊は、この世のことより主を選ぶ人にしか宿らないのです。「清くあれ」(3ニーファイ20:41; 教義と聖約38:42)、また「心を尽くし、勢力と意思と力を尽くして」主なる神を愛しなさい(教義と聖約59:5)。これらは提案ではなく、戒めです。御霊を伴侶とするうえで欠かせません。御霊なしに一つになることはできないのです。

もう一つの警告は、高慢です。御霊によって

わ たしたちは、
傷つけられても、
相手を救^{ゆる}い、
決して悪意を抱いては
ならないのです。
救い主は十字架の上で
模範を示されました。
「父よ、
彼らをおゆるしてください。
彼らは何をしているのか、
わからずに
いるのです。」



まさに適任です

ジョー・ビンガム

ガーナのヌサワムはにぎやかな田舎町です。パンの町として知られています。道端で、あるいは頭の上に載せた皿をぐらぐらさせながら、たくさんの人がパンを売っているからです。アサマンケセ地方部ジャンクrom支部の若い女性、プリンセラ・ジャンクはこの町に住んでいます。9歳でバプテスマを受けました。プリンセラと双子の兄弟プリンス、そして家族全員が末日聖徒イエス・キリスト教会の活発な会員です。

プリンセラが『成長するわたし』のプロジェクトとして何をしようかを決めるのに、遠くまで題材を探しに行く必要はありませんでした。プリンセラの集う支部に、トンプソン姉妹という人道支援宣教師がいます。彼女は町の大人に英語を教えるのにとっても苦勞していました。ヌサワムに住むほとんどの人は英語をまったく話しません。トンプソン姉妹も地元の方言であるトゥイ語を話さないの、生徒とうまくコミュニケーションが取れなかったのです。

そこでプリンセラの登場です。彼女は学校で英語を学んだほか、トゥイ語をはじめとする、この地方の4つの方言ができるのです。彼女ほどの適任者はいません。だれとでも話すことができるのですから。

プリンセラはこう語っています。「『知識』の徳質の体験とプロジェクトのところを読んでいたとき、読み書きクラスの手伝いをしてみてはどうかと思いました。最初は、父や母くらいの

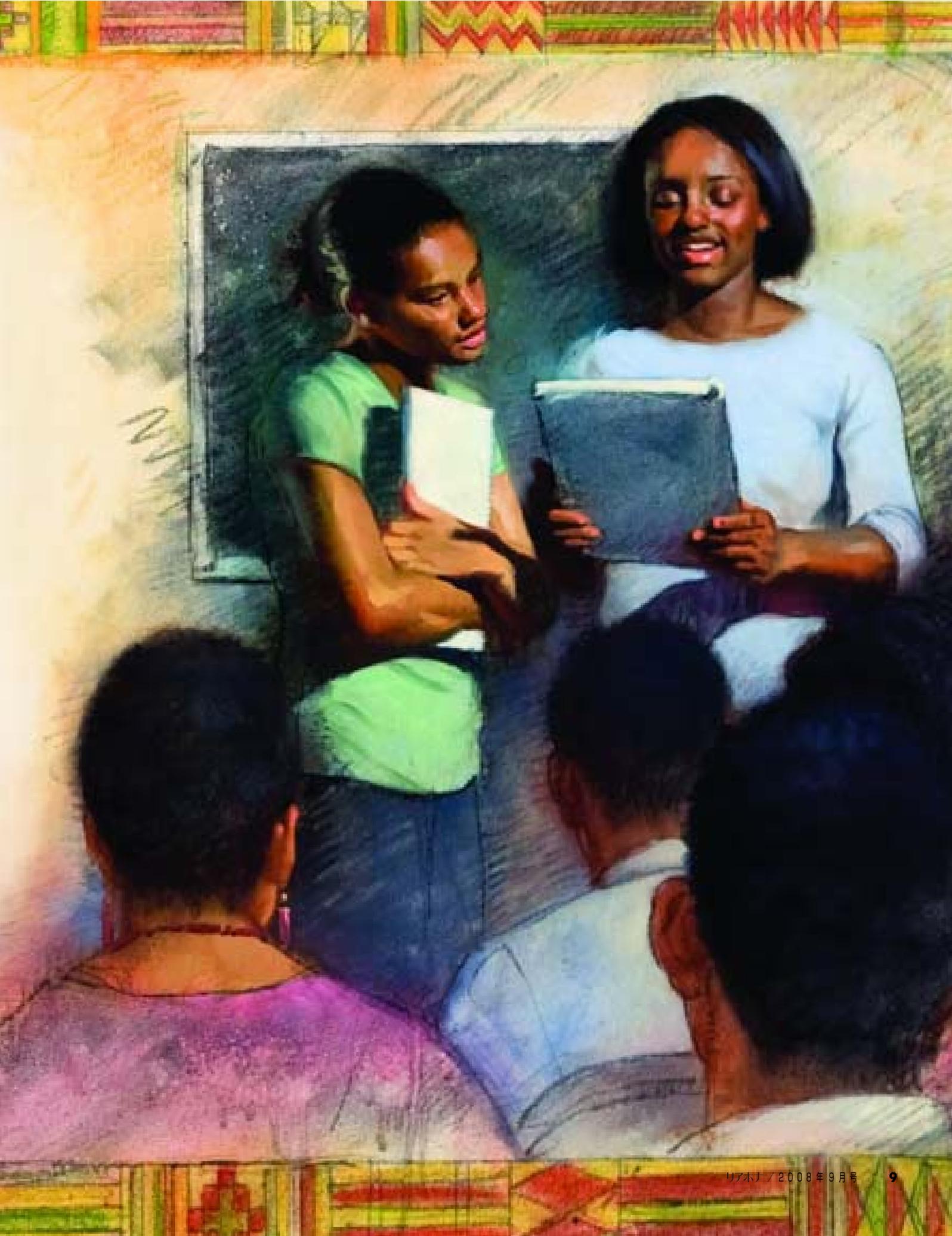
大人の前で英語を教えるなんて、とてもできないと感じました。最初の1週目と2週目は大変でした。大人の人たちはわたしにばかりにされていると感じたからです。それで、なぜ自分がこうして教えることになったかを説明しました。」すると、ぎくしゃくした空気が消え、10代の先生と大人の生徒たちの関係はずっと良くなりました。

プロジェクトを終えたとき、プリンセラは教えるのをやめようかどうか迷いましたが、続ける決心をしました。こう話しています。「読み書きクラスはとてもおもしろいです。絶対にやめたくありません。」人に仕えることは神に仕えることでもあると心に刻みながら、プリンセラは引き続き愛をもって奉仕しました。

その後、「若い女性表彰」を受けた彼女はこう話しています。「若い女性のプログラムのおかげで教会への証^{あかし}が強くなりました。ジョセフ・スミスが神から召されたことと、教会が真実であることを知っています。トーマス・S・モンソン大管長が生ける預言者であり、教会全体のために啓示を受けていることを知っています。教会の教義と原則がすべて正しいことを知っています。」

プリンセラはもう若い女性の年代ではありませんが、今も若い女性の組織に属しています。支部の若い女性会長会の書記に召されたのです。

21歳で伝道に出て、証を伝え、若い女性のころから行っている奉仕を続けることが彼女の目標です。■



知識を求めながら 信仰を強める

十二使徒定員会

クエンティン・L・クック長老



熱心に知識を
求めると同時に、
主イエス・キリストを
信じる信仰を
生活の中心とするうえで
欠かせないと
わたしが考える、
5つの原則を
紹介しましょう。

教会の教義において、信仰を持つことと知識を求めることは矛盾しません。相反することなく、互いを補っているのです。わたしの言う信仰とは、主イエス・キリストを信じる信仰のことです。

信仰にも知識にも、同じだけの努力と熱意を注ぐことが求められます。知識、スポーツ、趣味、お金、娯楽などに全力を注ぎ込みながら、信仰を生活の中心とすることはできません。

熱心に知識を求めると同時に、主イエス・キリストを信じる信仰を生活の中心とするうえで欠かせないとわたしが考える、5つの原則を紹介しましょう。

1. すべての事物には確かに反対のものがあることを理解してください。皆さんが何を選ぶかはきわめて大切です。

若い皆さんは、実に多くの選択肢に囲まれています。その中には、人生で最も大切な選びも含まれています。皆さんの行う選択は、皆さんの将来と幸せに大きな影響を与えるのです。

間もなく世を去ろうとしていた預言者リーハイはこのように教えました。「それは、すべての事物には反対のものがなければならないからである。」(2ニーファイ2:11)

そして、こう続けています。「そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要な

ものはすべて与えられる。そして人は、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。」(2ニーファイ2:27)

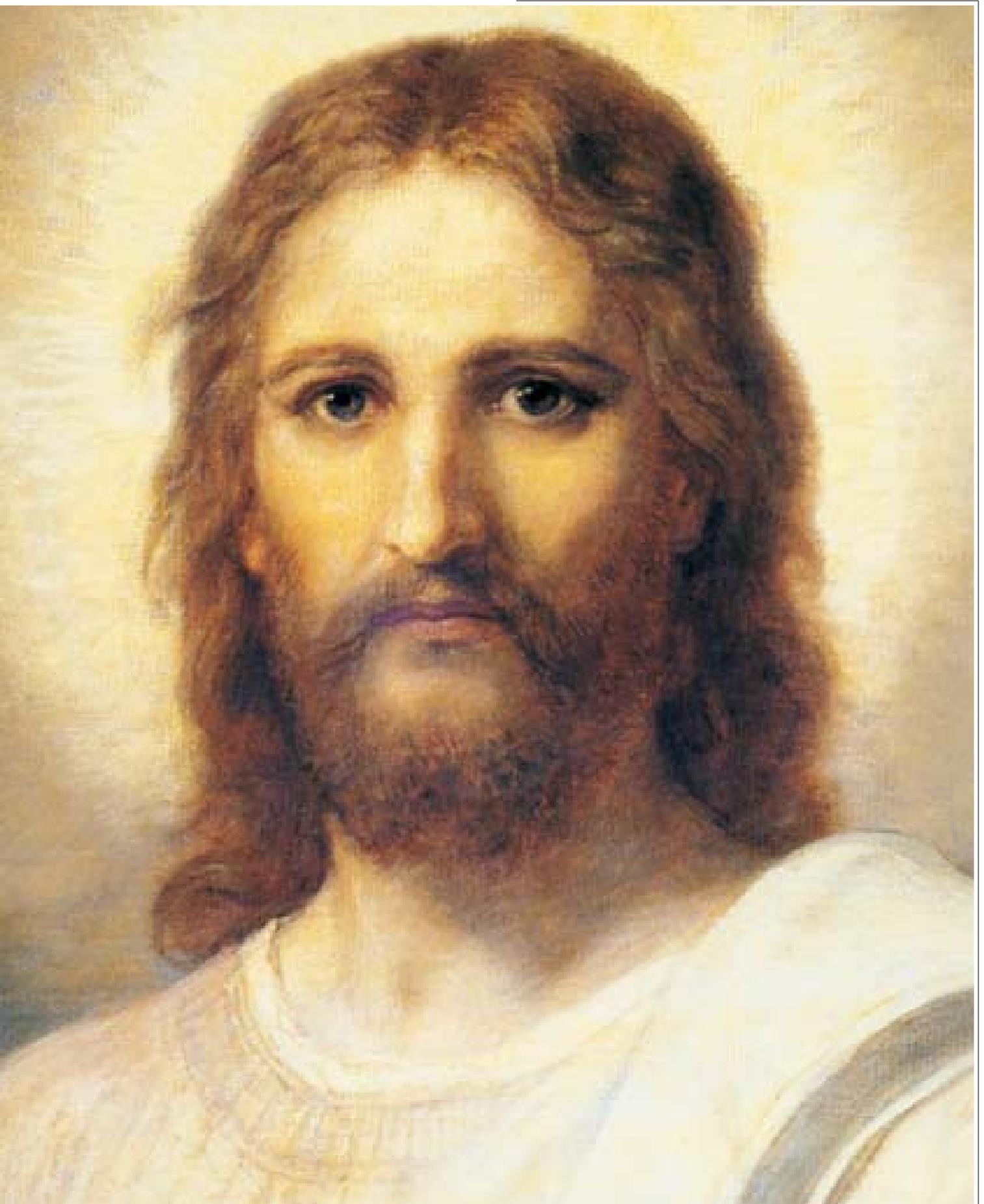
救いの計画をめぐり、天で戦いがあったことをわたしたちは知っています。ですから、この最後の神権時代に教えられている福音の原則が、激しい敵意を持つ者によって攻撃されていても、何ら不思議はありません。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910-2008年)は皆さんにこう約束しました。「皆さんは大人の生活を始めようとしています。皆さん〔は〕学校や結婚について悩んでいるでしょう。ほかにもいろいろな悩みがあるでしょう。わたしは皆さんにお約束します。もし皆さんが主の戒めに従って主の道を歩むならば、神は皆さんをお見捨てになることはありません。」¹

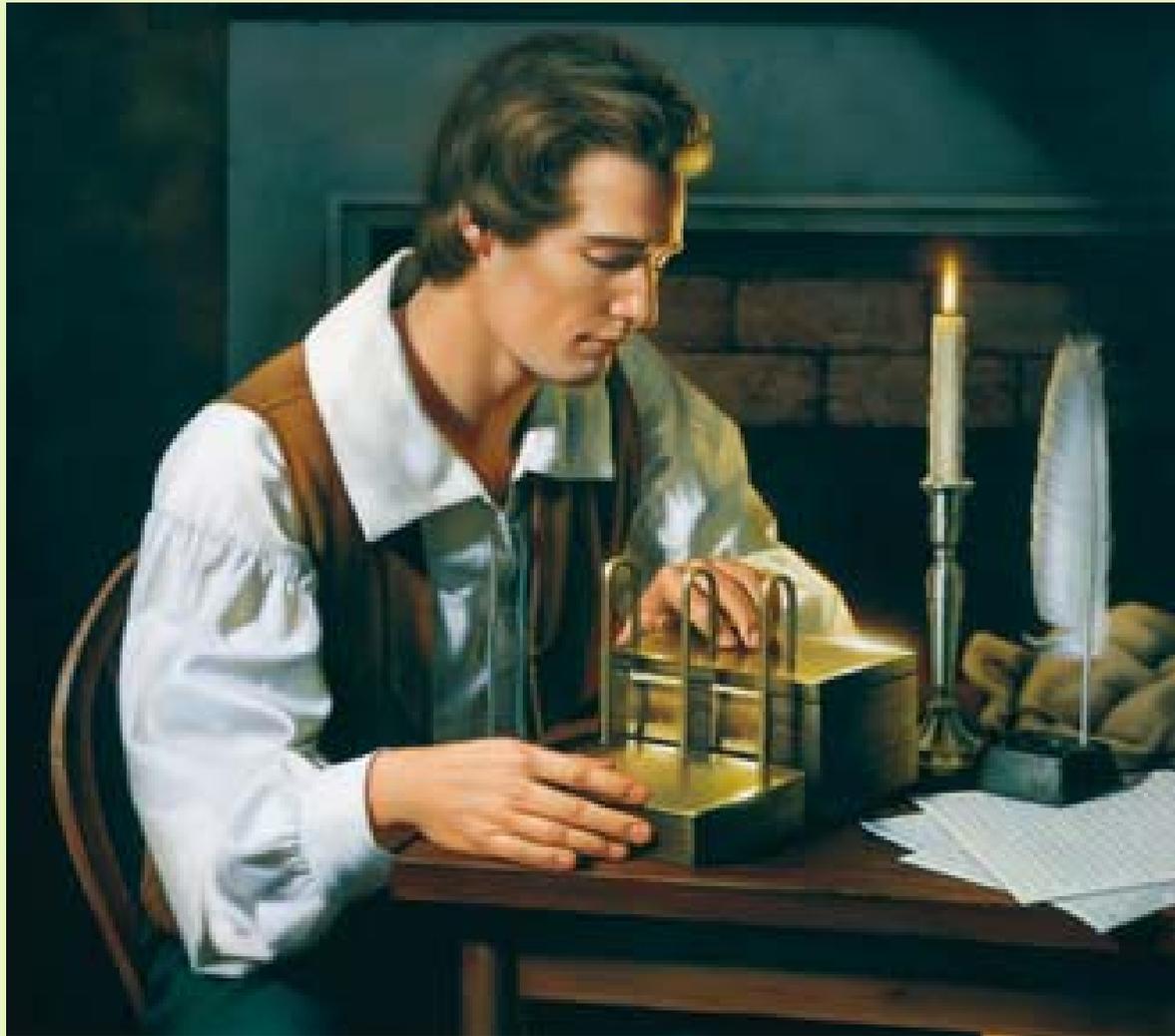
2. 証を強め、証を土台とした選択をしてください。

大切な決定や選択をするときはいつも、イエス・キリストについての証、そして預言者ジョセフ・スミスを通して回復された主の福音への証を土台として選んでください。この証を築くに当たり、モルモン書は欠かすことができません。

15歳のとき、わたしはモルモン書、ジョセフ・



大切な決定や
選択をするときは
いつも、
イエス・キリストについて
の証、そして
預言者ジョセフ・スミスを
通して回復された
主の福音への証を
土台として
選んでください。
この証を築くに当たり、
モルモン書は
欠かすことができません。



スミス、救い主に対する証を持つことの大切さ、また、その証がわたしたちの選択に与える影響を実感しました。

兄のジョーは20歳でした。朝鮮戦争の最中で、ワードからは一人の若い男性しか伝道に出られないことになっていました。残りの兄弟たちは徴兵に備えて待機しなければならなかったのです。その年の初めに、ワードから一人若い男性が伝道に出ていました。9月が誕生日だった兄は、伝道に出る機会はないだろうと思っていました。

ステーク会長から兄に電話がありました。だれも伝道に出ていないワードがあり、兄は伝道に出られるかもしれないと言われました。

当時、宣教師は20歳で召されていました。兄は医学部に願書を出したばかりで、成績も優秀でした。教会に熱心に通っていなかった父は、兄のために学費を用意していて、ステーク会長からそのような電話があったと聞いてがっかりしました。父はジョーに伝道をあきらめるように勧め、医学部に入る方がもっと多くの人を助けられると言って入学を促しました。

わたしたち家族にとって、これは大きな問題でした。その晩、兄とわたしは、どちらを選ぶかについて話し合いました。兄の方が5つ年上でしたので、兄が中心になって考えました。二人で考え抜いた末に、次のような結論に至りました。つまり、もしイエス・キリストが偉大で

悪い選択を
正当化しても
何の効果も
ありませんが、
悔い改めには
大きな効果があります。
悔い改める人は、
贖いによって
特に祝福されます。

預言者に従うなら、何の不安もなく将来に目を向けることができます。

5. ^{あがな}贖いの効力が余すところなく人生に及ぶように生きましょう。

悪い選択を正当化しても何の効果もありませんが、悔い改めには大きな効果があります。悔い改める人は、贖いによって特に祝福されます。贖いがなければ、正義という永遠の原則が罰を要求します(アルマ42:14参照)。贖いのおかげで、悔い改める人には憐れみがもたらされ、神のもとに戻ることができるようになります。



ます(アルマ42:15参照)。

わたしが贖いの意義について理解し始めたのは、祖父が亡くなる時でした。法科大学院を卒業後、カリフォルニア州の司法試験に向けて勉強していたとき、母から電話があり、祖父が亡くなる前に会いたければ、すぐにユタに来るようにと言われました。86歳だった祖父の容体はかなり悪くなっていました。祖父はうれしそうにわたしを迎えて、証を伝えてくれました。

祖父は3つのことを気にかけていました。

1. 祖父は10人の子供をととても愛していまし

た。皆、善良です。祖父は一人一人が神殿に入るにふさわしくあるようにと望んでいました。

2. 祖父の父親は、マーティン手車隊の人々を背負ってスイートウォーター川を渡った青年の一人でした。祖父が3歳のときに亡くなっていたので、父親に会えることを楽しみにしていました。そして父親やほかの家族に、自分が正しい人生を送ったと言ってもらえるよう願っていました。

3. 最後に、そして何よりも大切なことに、祖父はわたしに、救い主にまみえることをどれほど楽しみにしているかを話してくれました。祖父は、ニーファイ第二書第9章41節にあるように、救い主を「門を守る者」と呼んでいました。そして、自身の悔い改めが、救い主の憐れみを受けるのに十分であるよう願っていました。

すべての人は罪を犯します。贖い以外に、憐れみを受けて神とともに住む方法はありません。祖父が救い主をどれほど愛していたか、そして贖いにどれほど感謝していたか、わたしは今でもよく覚えています。

救い主が神の御子であられ、贖いが現実のものであるというわたし自身の証を伝えます。皆さんが、目の前にある大切な事柄についてどのような選択をするか、祈りを込めて考えるよう願っています。■

2006年3月14日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校で行われた
デイポーションナルから

注

1. 「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30
2. 「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日, 20

どちらの陣営で 戦いますか。

最も賢い決断は、正しい側を選ぶこと。
(モーサヤ5:10参照)

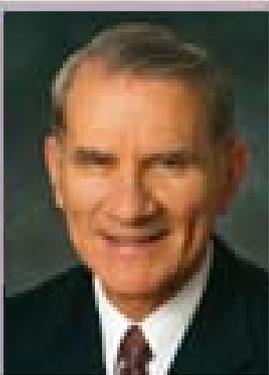


写真：クリスティアナ・スミス。アイチャクセン・ロン・クリスティアナ

熱心に学ぶ力

七十人会長会

ジェイ・E・ジェンセン長老



たくさんある
学習の機会を
最大限に
活用してください。

教義と聖約の中で主はこのように勧告しておられます。「それゆえ、今や人は皆、……学び、……まったく勤勉に」学ぶようにしなさい。なぜなら、学ばない者は、「……ふさわしい者と見なされない」からです。(教義と聖約107:99-100)

聖文には、学ぶことに関する聖句が144あります。その幾つかについて考えてみましょう。

「〔御子〕は、……さまざまの苦しみによって従順を学び、」(ヘブル5:8)

「忘れずに若いうちに知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守ることを若いうちに習慣としなさい。」(アルマ37:35)

「わたしたちよりも、あなたがたがもっと賢く〔なりなさい。〕」(モルモン9:31)

「わたしに学び、わたしの言葉を聴きなさい。」(教義と聖約19:23)

「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」(教義と聖約88:118)

「研究して学び、すべての良い書物に通じ、またもろもろの言語と国語と民族に通じるようにしなければならぬ。」(教義と聖約90:15)

「知恵を得て真理を見いだそうと熱心に努め〔なさい。〕」(教義と聖約97:1)

天からの訓戒としてこのような勧告が与えられていることを考慮すると、わたしたちは、どのように福音を学ぶべきか熱心に考えなければなりません。福音を学ぶには、注意深く論理的に考えながら研究し、祈ることが必要です。し

かし、人は肉体と霊の両方から成り立っていることを覚えておくことも大切です。わたしたちは霊の存在でもあるため、御霊^{みたま}の力によって学ぶことが欠かせません。

御霊によって学ぶ

預言者ジョセフ・スミスはこのように教えています。「神がその無限の知恵によって、わたしたちが死すべき状態でこの地上にいる間に、わたしたちに明らかにするのをふさわしく、適切であるとされたことは何であろうと、……まるで肉体を持たないかのように、直接霊に啓示が与えられるのです。そして、わたしたちの霊を救うこれらの啓示は、肉体にも救いを与えます。」¹

主はさらに、教義と聖約の中で、どのように教え、どのように学ぶかについて、御自身の規範を示して強調されました。

「真理の御霊によって御言葉^{みことば}を受ける者は、真理の御霊によって宣べられるままにそれを受けるということを、あなたがたが理解して知ることができないのはなぜか。それゆえ、説く者と受ける者が互いに理解し合い、両者ともに教化されて、ともに喜ぶのである。」(教義と聖約50:21-22)

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、理解することと教化されることについて説明し、この規範に従うことから得られる祝福



福音を
学ぶには、
注意深く
論理的に考えながら
研究し、祈ることが
必要です。

を強調して話しました。「『理解する』という動詞は、生徒の耳に聞こえる事柄を意味します。皆が同じメッセージを受けます。『教化する』という言葉は、聖霊との交わりの中で得るものを意味します。そのメッセージはそれぞれ異なり、御霊が個々の必要に合った形にしてくださるのです。」²

ニーファイ第二書第33章1節でニーファイは、御霊によって学ぶことのもう一つの側面を思い起こさせてくれます。「人が

聖霊の力によって語るときには、聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである。」これは力強い約束ですが、自身の生活に救い主を招かないかぎり実現しません。

救い主は戸の外に立って、たたいておられます(黙示3:20参照)。聖霊も戸の外に立って、たたいておられます(2ニーファイ33:1-2参照)。わたしたちはただ選択の自由を用いて、御二方を招き入れさえすればよいのです。



語られること
だけでなく、
語られないこと、
すなわち聖霊からの、
言葉では聞こえない
促しにも
耳を傾けてください。

熱心に学ぶために

2007年2月の世界指導者訓練集会では、教え、学ぶことがテーマとなりました。この集会で、十二使徒定員会会長のボイド・K・パッカー会長は、このように熱心に学ぶよう勧めるにはどうしたらよいか、具体的な勧告を与えました。学ぶことについて、パッカー会長が教えたことの中から幾つかをここで見てみましょう。

第1にパッカー会長は、熱心に学ぶ人は意欲的だと教えました。素直に受け入れ、教わるのを嫌がらないことで、学ぶ意欲を示すことができます。指示や訂正を受け入れるのを嫌がっていると、御霊に逆らい、成長と進歩の機会が制限されてしまいます。

第2に、祈り、特に具体的な祈りが必要です。公の場でも、独りであるときも、自分自身のために、また教師のために祈ってください。教師の発言のすべてが正しいとは言えないときもあります。言葉が足りなかったり、表現力に乏し

かったりすることもあるかもしれません。しかし聖霊は違います。わたしたち一人一人は自分自身のために、そして教師のために祈ることができます。例えばこのようにです。「天のお父様、教師はわたしが今どのような重荷や苦勞を抱えているかを知りません。教師を助け、わたしにとって必要なことを教えられるようお助けください。」学ぶ人がそのように祈り始めるなら、答えを得るようになります。

第3は耳を傾けることです。これはきわめて重要です。特に、パッカー会長は経験豊かな人の話を聞くように勧めています。「わたしは早い時期に、年配の人の経験談に耳を傾けることは非常に価値があることを知りました。……十二使徒定員会の中で、リグランド・リチャーズ長老は、ほかの兄弟たちのようには速く歩きませんでした。そのため、わたしはいつも長老のためにドアを開けて、一緒に帰るようにしました。するとあるとき、一人の使徒から、『君は実に親

切だ。リチャーズ兄弟を手伝ってくれているんだね』と言われました。でもわたしは、『兄弟は、わたしのほんとうの動機を知らないだけです』と内心思っていました。わたしは、リチャーズ長老と一緒に帰りながら、いろいろな話を聞いていたのです。リチャーズ長老が生前のウッドラフ大管長のことを御存じなのを知っていましたし、きっと話してくださると思っていました。』³

さらに、語られることだけでなく、語られないこと、すなわち聖霊からの、言葉では聞こえない促しにも耳を傾けてください。どちらも重要です。教師が言葉以外でも伝えようとしている部分に、常に敏感であってほしいと願っています。そうすれば、聖霊は、教師のメッセージを皆さんの必要に合った形にしてくださることでしょう。

第4に、耳を傾けたら、学んだ事柄をまとめることが大切です。聞いたことをもとに、内容を書き留めたり、発展させたりして自分のものにします。完全に理解できたかどうかを確認したければ、教える相手を探してください。通常、学んだことを分かりやすく述べることができないうちは、ほんとうに学んだことにはなりません。学んだ事柄をまとめるよう努めてください。これは価値のあることです。

学ぶ備え

熱心に学ぶためにできることはクラスの中に限りません。クラスに来る前にもいろいろなことができます。

バッカー会長は次のように勧めています。「早く起きることです。……そして思いが澄んでいる朝に、いろいろ考えるのです。良い考えが思い浮かぶのはこの時間帯です。』⁴ 確かにそのとおりです。早く起きて研究し、祈り、深く考え、耳を傾けるなら、啓示を受けられるでしょう。

また、集会、特に教会でも霊的な集会の一つである聖餐会に遅刻しないでください。礼拝堂では敬虔けいけんにしてください。啓示を受けられる状態でいてください。前奏曲を聞きましょう。話し相手を探さないでください。

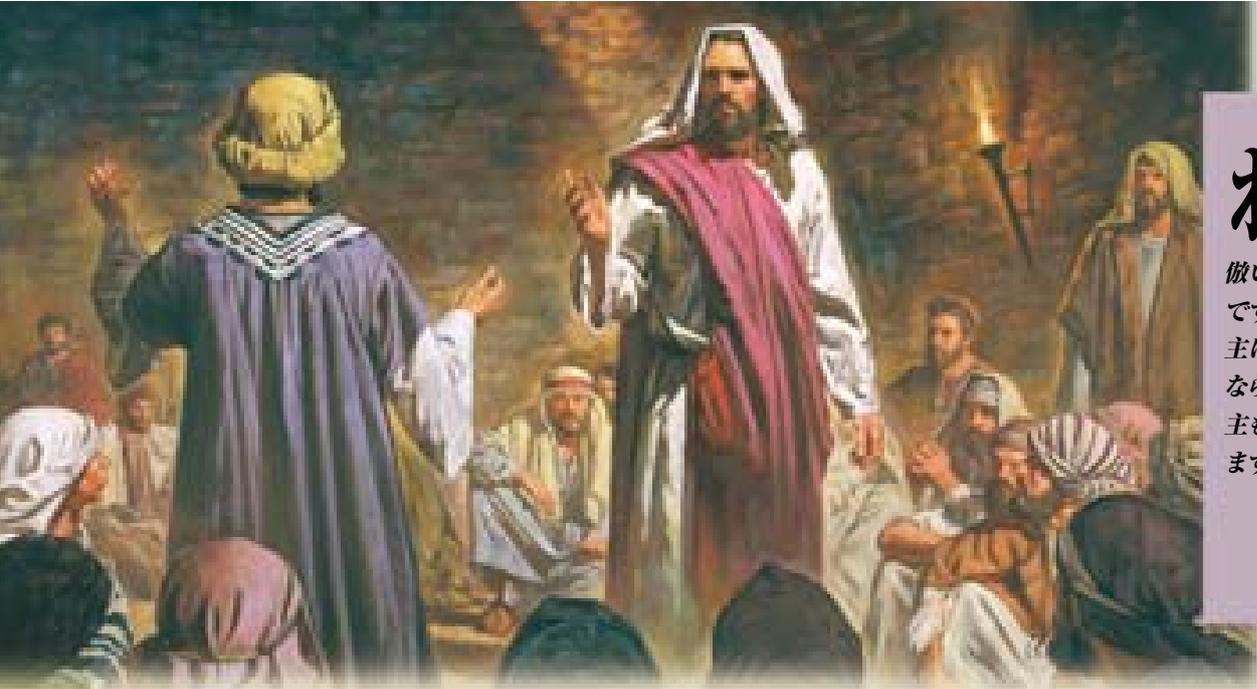
熱心に学ぶ者として、啓示を受ける備えをしてください。

さらに、教師や話者がどんなに上手に教えることができたとしても、わたしたち自身が、学ぶという責任を受け入れる決心をすることが大切です。以前、スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)はこのように述べました。「もし皆さんに御霊があるならば、証会は1か月の間に[教会]で開かれる集会の中で最も素晴らしい集会と言えます。もし証会が退屈であるとするれば、ほかの人ではなく皆さんに何か問題があります。立ち上がって証を述べるならば、それがその月の中で最も素晴らしい集会であると思うことでしょう。しかし、そこに座って、文法上の誤りを数え、あまり上手に話せない人のことを笑っているとすれば、退屈になるでしょう。……忘れないでください。皆さんは証を勝ち取らなければならないのです。戦い続けなければならないのです。』⁵

今日でも、これはとても力強い言葉です。

早く起きて研究し、祈り、
深く考え、耳を傾けるなら、
啓示を受けられるでしょう。





わたしは
最も偉大な教師、
救い主の模範に
倣いたいと願っています。
ですが、何を通して
主は偉大な教師に
なられたのでしょうか。
主も教える前に
まず学ばれたのです。

学ぶ機会を最大限に活用する

何より大切なのは、努力を続けることです。パッカー会長はインタビューの中でこの点を力説しました。あきらめてはいけません。こつこつと学び続けるのです。たくさんある学習の機会を最大限に活用してください。

何年も前、当時十二使徒定員会補助を務めていたマリオン・D・ハンクス長老は、学ぶ機会を最大限に活用する力について話しました。ハンクス長老は著名な植物学者ルイ・アガシ博士の経験談を紹介しました。博士はある未婚の婦人に話しかけられました。彼女はそれまで学ぶ機会が一度もなかったと言いました。博士は、目の前にある学習の機会を生かしてみるよう勧めます。

『あなたのお仕事は何ですか』と博士は尋ねました。

『ジャガイモの皮をむいたり、タマネギを刻んだりしています。』

博士は言いました。『そのような家庭的な仕事をするとき、どこに座っているのですか。』

『台所の階段のいちばん下の段です。』

『足をどこに置きますか。』

『化粧れんがの上です。』

『化粧れんがってどんなものですか。』

『さあ、分かりません。』

そこで博士は言いました。『そこに座って仕事をするようになってどのくらいたちますか。』

『15年になります。』

『わたしの名刺を差し上げます。』アガシ博士は言いました。『化粧れんがの特質についてわたしに手紙を書いてくださいませんか。』

彼女は博士の言葉をまじめに受け取りました。れんがとタイルについて、できる限りの文献を読み、36ページに上るレポートをアガシ博士に送りました。

ハンクス長老はこう続けています。

『アガシ博士からこのような手紙が届きました。『あの記事はこのテーマについてはこれまでで最高のもです。もしよろしければ、星印の付いた3つの言葉を変えていただけませんか。そうすれば、わたしの方で出版して、その代金をお送りします。』

少したってから、1通の手紙とともに250ドルが届きました。手紙の下の方にこのような質問が鉛筆で書いてありました。『れんがの下には何があるでしょう。』つい先ごろ時間を有効に使うことを学んだ彼女はただ一言『アリ』とだけ書いて返事をしました。すると博士は、アリについて教えてくださいと書いてよこしました。

多読と骨身を惜しまない、緻密な研究の後、この女性は360ページにも及ぶアリについてのレポートをアガシ博士に書き送りました。博士はそれを本にして出版し、販売した代金を彼女のもとに送りました。そして、彼女は自分の著書から得たお金で夢に見たすべての土地を訪れることができたのです。』⁶

この話から、現状に満足せず、熱心に学ぶように勧めるうえで欠かせない大切な原則が分かります。

わたしたちはよりよく学ぶことができます。また、よりよい学習者になることで、よりよい教師になるでしょう。わたしは最も偉大な教師、救い主の模範に倣いたいと願っています。ですが、何を通して主は偉大な教師になられたのでしょうか。主も教える前にまず学ばれたのです。主に従い、よりよく学ぶ者となるときに、主がわたしたち一人一人を祝福してくださいませうに。■

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』474 - 475
2. 「真理を理解し、真理に従って生活する」『リチャード・G・スコット長老の夕べ』2005年2月4日、<http://lds.org/library/display/0,4945,5344-1-2783-800.htm> (英語)
3. 「教え、学ぶことの原則」『リアホナ』2007年6月号、52
4. 「教え、学ぶことの原則」『リアホナ』2007年6月号、52
5. 『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』75
6. 「学ぶことをやめてはなりません」『聖徒の道』1980年1月号、23 - 24

黒板、 教えるための道具

黒板を適切に使用すれば、
教える力をさらに高めることができます。

教師として、わたしは生徒をレッスンに引き付け、参加させる効果的な方法をいつも探っています。自分としては黒板やホワイトボードを上手に使っていると思っていましたが、隣の教室の黒板を見たときに、その考えが変わりました。黒板の真ん中に、教義を簡単にまとめた文章、絵、そして二つの質問がきれいに書かれていました。質問に答えるための指示も記されていました。クラスに入って来た生徒たちは、質問に答えようと聖文を調べていました。さらに、教義についての話し合いまでしていました。これらの活動は、レッスンが始まる前に行われていたのです。

感動しました。普通であればただ過ぎてしまうだけの時間を使い、単純な道具で生徒をレッスンに引き付け、参加させていたのです。それから、教師は生徒を集めてあいさつをしました。開会の祈りが終わり、レッスンが始まったときには、すでに主の御霊が多くの生徒の心に触れていました。生徒たちは聖文を通してすばらしい経験をする備えができていたのです。

基本となる指針

福音を教えるために黒板やホワイトボードを使

用する場合、『教師、その大いなる召し』(162, 181 - 182参照)にある指針に加えて、次の事柄も役に立つことが分かりました。

- 簡潔さを心がける。2007年2月の世界指導者訓練集会で、十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、視覚資料はあくまで補助教材であるということを指摘したうえで、教師にこのように語りました。「(視聴覚資料は)レッスンの代わりをするものではありません。料理でスパイスを使うのと同じように、視聴覚資料を使ってください。スパイスは味を良くし、引き立て、豊かにするものです。地図、絵、ビデオ、また黒板かホワイトボードに書いた重要事項は、しばしば、良いレッスンを偉大なレッスンに変えてくれることがあります。」¹

- 準備する。レッスンを教える前に、黒板やホワイトボードをどのように使うかを紙にまとめてください。

- 読みやすい字で書く。『教師、その大いなる召し』(カタログ番号36123 300)の中で、教師は次のように勧められています。「板書事項が十分な行間を取って書かれ、整然としており、読みやすいことを確かめながら、皆が見えるように、はっきりと大きく書く。」² クラスの生徒に手伝ってもらうのも一つの方法です。

教会教科課程部

ロブ・ジョーンズ

福音を学ぶ
手助けをするために
何か新しい方法を
探しているなら、
見慣れたものを
新しい視点で見ることから
始めてみてはどうでしょうか。
それは……、
黒板です!



マタイ
5:14-16

黒板か
ホワイトボードに
簡単な絵を
幾つか描きます。
それらの絵に
どのような
つながりがあるか、
生徒に
聖句を読んで
答えてもらいましょう。

何を書くか

レッスンを通して、より意義深い経験をクラスの生徒にさせるための、黒板とホワイトボードの使い方を紹介します。

生徒へのメッセージを書く

「〇〇クラスへようこそ」や「今日も頑張りましょう」などと書き、生徒を歓迎する。

- 学校や教会で何かを達成した個人を褒める。例えば『「神への務め達成証明書」獲得おめでとう!』

- 定例会会長やクラス会長に活動予定などの発表事項を書いてもらう。

生徒の興味を引き、レッスンの質を向上させるために、次のようなことを書く

- **レッスンのタイトル**——レッスンのタイトルか、鍵となる言葉を書いてください。クラスの始まる前に生徒がレッスンについて考える助けになります。

- **質問**——レッスンの途中で尋ねようと思っている質問を、最初から黒板に書いておきます。クラスが始まる前に答えを書き留めておくよう、生徒に指示することもできます。こうすれば、より意義深い話し合いができるでしょう。

- **絵**——生徒の多くは、見ることによって学びます。黒板かホワイトボードに人、物、または出来事の簡単な絵を描くか、生徒に描かせてみてください。例えば、燭台ますに載せたあかり(ろうそく)、枡、山を描きます。次に、生徒にマ



黒板を使って 生徒を引き付ける



「黒板ほど良い教材はないと思います。あれほど有効な教材はまれでしょう。まず、黒板は手軽に使えます。次にどこでも使えます。世界中どこでも黒板は手に入ります。レッスンの本筋を口述しながら、黒板を使って生徒たちの目を捕らえることができます。話しながら、黒板に過不足なく書くことにより、生徒たちの注意を集中させて、概念を理解させることができます。ただし、あまりに興味を引きすぎると、視覚教材の方に目が向いて、レッスンがおろそかになります。」

十二使徒定員会会長 ボイド・K・バックー
Teach Ye Diligently, 1975年, 266

タイ5:14-16を読むように言い、あかり(ろうそく)、柀、山の間にどのようなつながりがあるかを考えさせます。

● 概略——黒板かホワイトボードを使うことによって、レッスンを生徒に分かりやすい小さなまとまりに整理することができます。例えば、邪悪なノア王や王の祭司、王がニーファイの民に負わせた重荷について書かれているモーサヤ11:1-15を教えているとすれば、黒板かホワイトボードに「ノア」「祭司」「民」と書きます。この3つについて分かることを生徒に見つけさせ、教師か生徒が、それぞれの下に書きます。

書くことによって生徒をクラスに参加させる

● 生徒の意見——黒板かホワイトボードの前に生徒を招き、レッスンで扱うテーマについてどう考えるかを短い言葉

で書かせます。例——自分にとってなぜ神殿は大切か。

● 生徒アンケート——教会の標準についてレッスンしているとします。黒板かホワイトボードに3つの欄を作り、それぞれ「知恵の言葉」「正直」「道徳」と書きます。クラスの生徒一人一人に、多くの人にとって守るのが最も難しいと思われる標準を選ばせ、その標準の下に印を付けていきます。その後、生徒に感じていることを発表するよう依頼します。

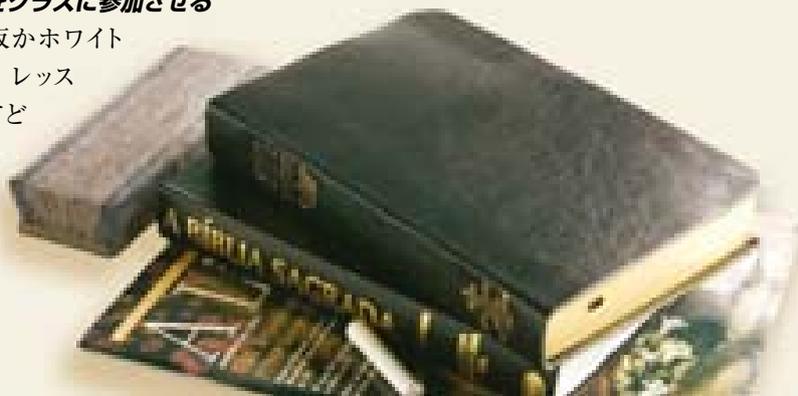
● 生徒の答え——黒板かホワイトボードに質問の答えを書かせます。聖霊についてのレッスンであれば、「神は聖霊を通してわたしたちに何の真理を明らかにされますか」という質問の答えを生徒に書かせてもいいでしょう。

簡単な道具で効果的なレッスンを

もちろん、黒板かホワイトボードを使って学習を促進する方法はほかにもたくさんあります。クラスの生徒やテーマに合わせて、皆さん自身の方法も考えてみてください。■

注

1. 「教会で教え、学ぶ」「リアホナ」2007年6月号, 71参照
2. 「教師、その大いなる召し」162



啓示と生ける預言者

ジョセフ・スミスは、教会における啓示の大切さを知っていました。

最初の示現をはじめとする数々の啓示を受けたジョセフ・スミスは、主の言葉と御心みこころを地上の人々に明らかにするために選ばれた神の預言者でした。ジョセフは預言者として経験を積みながら、教会には啓示という秩序があることをはっきりと理解しました。啓示と生ける預言者の役割に関するジョセフ・スミスの教えを紹介します。

啓示はなくてはならないものである

「啓示によって明らかにされた教義は、啓示に基づいていない教義をはるかに超越します。なぜなら、天から示される真理の一つは、現存する諸教派の持つすべての信条に匹敵する価値があるからです。」

「啓示なしに救いをもたらされません。啓示なしに教え導くのはむなしことです。……イエスについての証あかしがなければ、だれもイエス・キリストの教導者となることはできません。そしてこの証は、すなわち預言の霊です〔黙示19：10参照〕。」

啓示という秩序

「あなたはあなたの長であり、教会の長である者に命じてはならない。わたしは彼に代わる別の者を彼らのために任命するまでは、奥義かぎの鍵と封じられている啓示とを彼に授けたからである。」(教義と聖約28：6-7)

「大管長と管長たち、すなわち大管長会は、教会を管理します。そして教会に対する神の思いと望みについての啓示は、大管長会を通じてもたらされます。これが天の秩序であり、〔メルキゼデク〕神権の力と特権です。またこの教会では、どの役員にも、教会における自分の召しと義務の範囲内で啓示を受ける特権があります。」

神の預言者に従う

「わたしたちの中には、あまりに賢いために教えを受けることのできない男女が非常に大勢います。そのため彼らは無知のまま死ななければならず、復活のときに自分が間違っていたことに気づくでしょう。」 ■

『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』(メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程) 195, 197, 202から



イエス・キリストの福音は、 神の子供たちの持つ 永遠の可能性について教えている



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉をお教えください。その教義について証^{あかし}してください。あなたが

教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。

わたしの永遠の可能性とは何でしょうか。

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老——「女性は献身的な神の娘としての使命を達成しようとして立ち上がるとき、最も豊かな報いがもたらされるでしょう。すべての忠実な聖徒に対し、主は王位、王国、公国、栄光、そして不死不滅と永遠の命を与えると約束されました(ローマ2:7;教義と聖約75:5;128:12,23;132:19参照)。末日聖徒イエス・キリスト教会の女性はこのような可能性を持っており、その可能性は永遠に続く、神聖なものなのです。」(『女性——その計り知れない価値』『聖徒の道』1990年1月号, 22参照)

中央扶助協会会長 ジュリー・B・ベック——「すべての少女、すべての女性が、……永遠の母となる可能性が自分の内に秘められている、という証を持てますように。……女性の役割はこの地上で始まったものではありませんし、ここで終わるのでもありません。地上で母親の役割を尊ぶ女性は、来世でも同じようにします。『彼女の]宝のある所には、心もあるから』です(マタイ6:21)。『母の心』を養い育てるこ

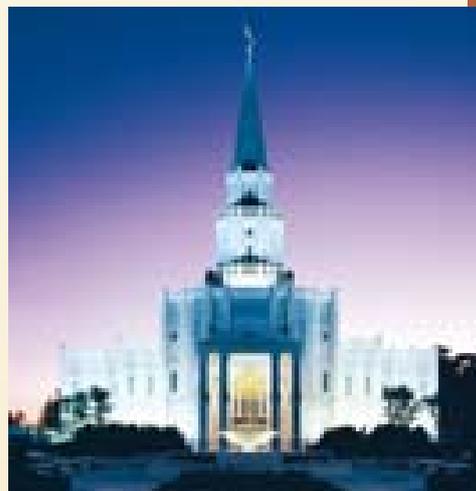
とにより、すべての少女と女性が母としての神聖な永遠の役割に備えることができます。」(『母の心』『リアホナ』2004年5月号, 76)

永遠の可能性に到達するのを助けてくれるものは何でしょうか。

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラーダ長老——「神はわたしたちが進歩し、潜在的な自分の能力を発揮するために必要な導きを与えることによって、わたしたちへの愛を示してくださいました。……わたしたちについて、すなわち、わたしたちの持つ能力や永遠の可能性について最もよく御存じである神は、指示の手引き、すなわち聖文の中で、勧告と戒めを与えられました。」(『子供たちへの神の愛』『聖徒の道』1988年6月号, 59)

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長——「神が万物を創造し、わたしたちに命をお与えになったのは、わたしたちが神のもとに戻り、ともに永遠の命にあずかるうえで必要な学習経験を得るためです。それはわたしたちの性質が変化することによってのみ可能となります。主イエス・キリストを信じる信仰と真の悔い改め、そして主が御父の教会を通して御自身のすべての子供たちに与えられる聖約を交わし、守ることによって自らの性質を変えるのです。」(“Education for Real Life,” *Ensign*, 2002年10月号, 16)

ジョン・テラー大管長(1808-1887年)——「わたしたちの主たる目的は永遠の命であり昇栄です。わたしたちの主たる目的は、自分自身や子孫、先祖を永遠の世界における王位と公国、力のために備えること[です]。……また[古代の聖徒たち]とわたしたちが、地上に創造された目的を果たし、永遠の世界に存在する英知たちと交わりを持つ用意を[し]、御父の前に再び帰る[ことなのです]。わたしたちは御父のもとから来ました。そして、啓示なしには人類が知り得ない永遠の真理にかかわっているのです。わたしたちはその目的のために現世にいます。……神殿を建設するのはその目的



のためです。エンダウメントを受け、聖約を交わすのはその目的のためです。」(『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』[メルキゼデク神権と扶助協会の教科課程]8-9参照)

教義と聖約78:18——「元気を出しなさい。わたしがあなたがたを導いて行くからである。王国はあなたがたのものであり、その祝福もあなたがたのものであり、また永遠の富もあなたがたのものである。」■



あきらめませんでした

カルロス・A・デル・ロンゴ

1963年にアルゼンチンでバプテスマを受けてから1年後、支部の書記として奉仕するよう召されました。ある日、白紙の「家族の記録」と数枚の系図表用紙を見つけました。記入の仕方を教わったことはありませんでしたが、母に助けてもらいながら、わたしは用紙に書き込み始めました。母は自身の先祖、そして夫つまりわたしの父の先祖の名前だけでなく、4代前までの先祖たちの人生の節目となる出来事の日付を覚えていました。5代前の先祖についても数人、6代前も1人覚えていました。

わたしはもっと調べたいと思い、母から聞いた情報の確認作業に入りました。すると家族歴史の業の目的が分かるようになり、わたしはすぐに愛する先祖の名前を神殿に提出し始めました。

母方の先祖に関しては順調に進んだものの、父方を調べるのには苦勞しました。いろいろと手を尽くしましたが、25年近くもの間、父方の祖父の生年月日を特定できませんでした。結婚証明書によるとイタリアのウディネと周辺の町におよそ30通の手紙を書きました。しかしどの返事にも、探していた答えはありませんでした。

1988年、家族歴史センターがロサリオに開設され、わたしは図書委員に召されました。たくさんの資料に囲まれ、天にも昇る心地でした。何時間も資料を読み、たくさんの町からマイクロフィルム化された記録を取り寄せました。国際系図索引(International Genealogical Index またはIGI)で、祖父や曾祖父とまったく同じ名前を見つけました。この2人の男性の出生地であるイタリアの町に手紙を書き、出生証明書を請求しました。教区牧師が送ってくれましたが、記録を見るとわたしの先祖ではないことが分かりました。

イタリアのウディネと周辺の町に
およそ30通の手紙を書きましたが、どの返事にも、探していた答えはありませんでした。

わたしは再び手紙を書き、どんなささいなことでもいいので祖父に関する情報がないか牧師に尋ねました。牧師は市役所の連絡先を教えてくれたので、わたしは手紙を書きまし

た。市役所から届いた1枚の資料を読み、わたしは歓喜しました。祖父母、曾祖父母、高祖父母、そのほか多くの親族の名前と重要な日付が書かれていたのです。また、祖父がアルゼンチン到着後に名前を変えていたことが分かりました。祖父について調べるのに苦勞した理由はこれだったのです。

再び市役所に手紙を書き、先に受け取った資料の前のページを送ってくれるよう頼みました。市役所はわたしの依頼に応じてくれました。受け取った資料には、さらに27人の名前があり

ました。その人たちが自分の先祖であるという確信を胸に、全員の神殿の儀式を済ませました。

このようなすばらしい経験のおかげで、家族歴史を調べるために払った努力は十分に報われたと感じています。落胆するときもありますが、あきらめたことはありません。先祖について調べるわたしを、天の御父が確かに導いてくださっていることが分かります。

天の御父が御自身のすべての子供たちに神殿の儀式を受ける機会をお与えになることを知っています。それが今であるか、福千年であるかは分かりません。しかし霊界で福音を受け入れた先祖は、わたしたちが家族歴史の業を行うのを待ち焦がれていることも知っています。主のために最善を尽くすなら、主は道を備えてくださるのです。■

家族歴史の思い出

スティーブン・C・ヤング

1979年の夏、生まれ育ったカナダのオンタリオ州ロンドンにあるワードの会員から連絡をもらいました。驚いたことに、彼らの家の裏庭にある納屋から、母が残した本や書類が出て来たと言うのです。ぼろぼろになった幾つかの段ボール箱から、未完成の系図表、何枚かの「家族の記録」、系図を調べた経過を記したメモが見つかりました。一番の掘り出し物は、わたしが11歳のときに亡くなった母が自らの手でつづった個人の歴史でした。すばらしい記録で、1930年代にイングランドで過ごした子供時代や第二次世界大戦下の生活が、4ページにわたって記されていました。

この記録を見つけたことで、わたしは初めて家族歴史に興味を持つようになりました。先祖に心が向くようになったのです。

それから2年近くがたった1981年4月、父が突然に他界しました。遺品の中に、「CMY」という父のイニシャルが刻まれた指輪を見つけましたが、父

がこれを指にはめているのを見た記憶がありませんでした。若いころ、第二次世界大戦でカナダ海軍の掃海艇に乗っていたときに身につけていたものに違いありません。

父が亡くなった今、わたしが作った1ページの系図表の中で、生きているのはわたしだけになりました。さらに



高祖父の
建てた、
オークランズ
通り32番を見つけ、
玄関の前に
立ったときのことを
忘れることは
ないでしょう。

情報を集めるには親戚しんせきに頼らなければなりません。親戚の一人に、ベティーという祖父の義理の姉がおり、イングランドのケント州バクスリーヒースにある、先祖代々の家に今も住んでいました。母の家族を訪ね、彼らについてもっと知りたいといつも思っていたが、独身の大学生だったわたしには、そのための資金がありませんでした。しかし、父の多少の遺産のおかげで、海を隔てたイングランドを訪れることができるようになりました。

初めてベティーおばさんを訪ねたときは緊張しました。先祖についても知りたいというわたしの気持ちを理解してもらえるでしょうか。2階建てバスに揺られながら、窓に映る、右手にはめた父の指輪に目をやりました。指輪のおかげで安心できました。父がわたしのひざに手を置いて、目的を果たせるよう応援してくれているかのようにでした。

うれしいことにベティーおばさんはわたしを温かく迎え入れ、家族について、これまで知らなかったたくさんの有益な情報を教えてくれました。彼女が住んでいる家は、わたしの高祖父が建てたということも聞きました。その夜、わたしは祖父が子供のころに使っていた寝室で休ませてもらいました。祖父に会ったことはありませんでしたが、おばさんが見せてくれた写真の祖父は、驚くほどわたしと似ていました。おばさんは寛大にも、家族の古い写真の一部、手紙、そして家族で愛用していた聖書を譲ってくれました。聖書には、1830年代から始まる、2世代の家族の氏名、生年月日、出生地が書かれてありました。

雨の降るあの9月、歓迎されないのではという不安を胸にバスを降り、先

祖が建てた家へと向かったあの日からもう25年以上が過ぎました。以来、アメリカとヨーロッパに住む親族から先祖についてたくさんの貴重な情報を提供してもらい、神殿の儀式を執行することができました。

オークランズ通り32番を見つけ、玄関の前に立ったときにガラスに映った自分の姿を忘れることはないでしょう。そこにあった見慣れた自分の顔は、ふるさとに帰って来たわたしを歓迎する青年時代の祖父の顔だったのかもしれません。■

フィンランドでの探求

ジュディス・アン・ラウルネン・マクニール

わたしと姉のジャニスは、自分たちラウルネン家の先祖について情報がまったく手に入らないことに意気消沈していました。分かっているのは、先祖が1901年にフィンランドからアメリカに渡って来たということだけでした。そこで2004年8月、夫のチャーリーとわたしは、ジャニス、いとこのサンディーとともに、先祖を見つける旅に出かけました。

出発前に資料集めをしていたところ、サンディーが、1605年に建てられたラウルネン農場についての2ページにわたる資料を見つけました。先祖についてさかのぼっていくと、1569年にカウハヨキという町に暮らしていたところまで分かりました。

フィンランドに着いたわたしたちはレンタカーを借り、翌朝早く、遠くカウハヨキの町を目指して出発しました。町がなかなか見つからず、もうあきらめようかと思ったとき、チャーリーが小

な空港を見つけました。わたしたちはそこへ行って助けてもらうことにしました。サンディーがラウルネン家の資料を一人の青年に見せたところ、彼はわたしたちをカウハヨキの図書館まで案内してくれました。この町は森を貫く幹線道路の先の、とても分かりにくい所にありました。自分たちだけではきっと見つからなかったでしょう。主が旅路を導いてくださっているように感じました。

図書館では若い女性がルーテル教会と墓地に印を付けた地図をくれました。教会はすぐに見つかりました。牧師と数人の事務員の助けを借りながら2時間ほど調べた後、一人の事務員が、わたしたちのいとこにあたるラウルネン家の親戚しんせきに電話をかけて、アメリカから訪問者が来ていると伝えてくれました。彼らは1550年までさかのぼる家系図を手にも、すぐに来てくれました。

教会の帳簿係に通訳してもらいながら、わたしたちは美しく手入れされた墓地を歩きました。サンディーは生まれて初めて祖父の墓の前に立ちました。その後、祖父の写真を見せてもらい、祖父が使っていたバイオリンにも触れました。なかなか情報が見つからなかったときの落胆が喜びに変わり、わたしたちは深い感動に包まれました。

いとこたちは、持って来た資料にあった家族農場に車で連れて行ってくれました。ラウルネン家はそこから一望できる土地をすべて所有していたそうです。家屋はとても広く、1550年以来、ずっとラウルネン家が住んでいたと教えてくれました。ロシア軍がカウハヨキに侵攻して来たときは、この農場が軍の司令部になりました。ロシア軍は教会と周辺の家をすべて焼いてしまいました。わたしたちの先祖は、町の

人々とともに安全を求めて森に避難しました。ロシア軍がいなくなると、人々は祖父の指揮で、先ほど訪れた教会の建設に取りかかりました。その後、農場の周りの土地は分割され、売られたのだそうです。

2005年、わたしはジャニスとサンディーとともに、フィンランドのいところを再び訪ね、さらに調べました。2006年には初のラウルネン家の集まりをアメ

リカで開き、フィンランドからは15人のいところが参加しました。祖父母の生涯をたたえるこの会に、89人が集まりました。

これほどまでに豊かで貴重な家族の歴史を見いだしたうえ、自分自身について、また先祖についてさらに深く知ることができたことは大きな喜びです。家族歴史は主の業です。■

母の日記

エドナ・F・チャンドラー

母と暮らすようになって5年近くがたっていました。長年にわたってわたしを慈しんでくれた母を、愛と感謝をもって世話できることをうれしく思っていました。しかしもう母の笑顔を見たり、ユーモアあふれる言葉に笑ったりできないのは寂しいことでした。もう一度、かつて一緒にドライブしたときの喜びや興奮を母にどうしても味わってほしいと望んでいました。目的地はどこでもかまいません。車窓に見える花や、電線に止まる鳥、遊んでいる子供たちを、母は必ずわたしに教えてくれたものでした。

一緒にじゃがいもの皮や豆のさやをむいたり、本を読んだりしたひとときが忘れられません。子供時代の思い出を母と話し、わたしのきょうだい、そして母の孫たちに最近どんなことがあったかを知らせてあげたくてたまりません。母は家族が、特に孫が訪ねて来るのをいつも楽しみにしていました。しかし、母が認知症を患った今、状況は変わってしまいました。母は、自分の世話をしてくれる特別な人だということ以外、わたしのことは何も分かっています。きょう

今日は特に母とうまくいきませんでした。話をしようとする、いつものうつろな目をこちらに向け、介助しようとする、警戒した表情を見せるのでした。気持ちを整理しようとソファに腰を下ろしたわたしは、疲れ切り、困惑していました。

わたしたちは美しく手入れされた墓地を歩きました。そしていところは、生まれて初めて祖父の墓の前に立ったのです。



興味を示してくれればと、母の日記の中から1冊を選び、声に出して読み始めました。少しでも記憶が戻るかもしれないという期待もありました。努力は実を結びませんでした、そのまま読み続けていると、わたしの中で眠っていた記憶がよみがえってきました。

家族が訪ねて来てくれたときの喜びと、家族が帰った後の寂しさについて母は繰り返し書いていました。父が病に伏し、長い闘病生活を送らねばならなかったこと、59歳で父を看取らなければならなかったこと、それがどれほどつらかったかを つづっていました。父にどれほど会いたがっているか、また同じ病気にかかった兄をどれほど案じているかが書かれていました。

教会で教えたり、シングルアダルトの活動に参加したりしたときの喜びや充実感についても記されています。毎週、アリゾナ州デイルコンにあるナバホインディアンの保留地に出かけて行って福音を教えたとときに感じた満足感についてもつづられていました。ページをめくりながら、人から頼りにされているときは、その期待にこたえられる人間になるべきだと母が口癖のように言っていたことを思い出しました。奉仕で忙しく、あまり書けない日もありました。そんな短い文章を見ると、母が助けや励ましの必要な人によく食べ物や贈り物を持って行っていったことを思い出しました。

母は日記の中で何度も福音についての証^{あかし}を述べていました。

特に心を打たれたのは、わたしの娘デブラ・スーがダウン症と合併症を抱えて生まれてきたとき、母がどれほど悲しみ、心配していたかについて書かれた部分です。心臓切開手術と合併症の治療を受けていた娘のため、夫婦で病院を行き来していた約1か月の

間、70歳の母に、家で待つ子供たちの食事を作り、世話をすることが果たしてできるかと思いましたが、母はほんとうにやっけてのけたのです!

気 高い母に
対する
限りない
愛情と、
昔の母を
呼び戻してくれた
日記への
深い感謝の気持ち
がとめどなく
あふれてきました。

助けてほしいとき、母は必ずそばにいてくれたことを思い出しました。これまでずっと母は、直接来ることができないときにも必ず手紙を書き、祈りを通してわたしたちを支えてくれていたのだと実感しました。

その夜、母が眠るまで賛美歌を歌っていると、気高く、犠牲をいとわなかった母に対する限りない愛情と、昔の母を呼び戻してくれた日記への深い感謝の気持ちがとめどなくあふれてきました。■



マタイ 5:14-16

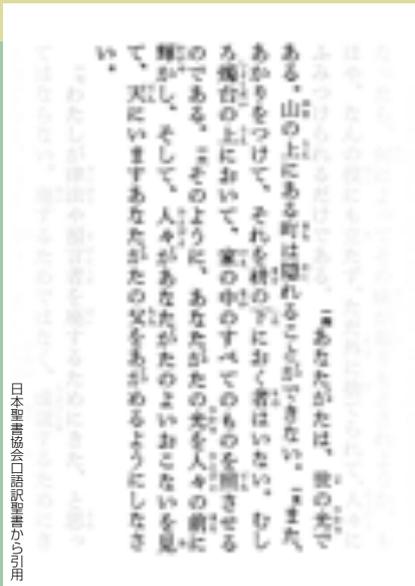
救い主は山上の垂訓で、人生に福音の光を輝かせることの大切さを教えられました。



世の光

「イエスは、すべての人がイエスを知るよう望んでおられます。なぜなら、イエスを知ることで人生を変える力が得られ、言葉では言い尽くせない喜びがわたしたちの人生にもたらされるからです。しかし、福音の及ぼす影響力はただ一人の人のうえにとどまるものではありません。周囲の人々の生活から闇を払いのける光となるのです。自分一人だけで救われる者はだれもいないのです。それは、ちょうどランプがランプのためだけに光ることがないのと同じです。」

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老
「人生を正しく築く」『聖徒の道』1990年11月号, 47参照



あなたがたの光を ……輝かし、



「主がこの神権時代にともされた明かりは、全世界を照らす明かりとなります。またわたしたちの良い業を見る人々は天の御父をあがめ、わたしたちが示す模範に倣うようになるのです。」

まずあなたやわたしが、そしてわたしたち全員が家庭や職場、娯楽の場でも模範を示すことで、人が仰ぎ見、教えを受ける山の上の町のようになり、地の民が力を得る、もろもろの国民の旗となることのできるのです。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)
「山の上にある町」『聖徒の道』1990年11月号, 8参照

山の上にある町

古代の町はよく山の上に建てられました。その方が町をより守りやすく、より安全だったからです。遠くからも見え、人々は危険が迫ったときにどこに避難すればよいのかが分かりました。キリストの弟子になるということは、山の上にある町になることとどのような点で似ているのでしょうか。

ます 拵

この言葉〔英語ではBushel〕はもともと、古代ギリシャで使われていた布などを計る単位(約8.7リットル)に由来しています。また、この量を計るのに使われた容器のことも意味します。バケツのような大きな容器でろうそくを覆うとどうなるか想像してみてください。

よいおこない

賛美歌「今日われ善きことせしか」(『賛美歌』137番)の歌詞を読んでください。だれかを助けたり高めたりするためにできることを幾つか書き出してリストにし、いつ実行するか計画してください。あなたのリストを、よく見える場所に置か張るようにしましょう。

編集者注——この記事は、上記の聖句のすべてを説明するものではありません。個人で研究するきっかけとしてください。

ローマ

に入りては.....

これらのローマ人に従え

ローマの青少年たちは、
義にかなった生活を送ることで
強さを身に付けています。

左から右——

アンドリュウ・ビショップ、
アリアンナ・ヒボ、
リカルド・セレスティーニ、
デニス・デ・フェオ、
ダビデ・ボスコ、
ダリラ・バルデウ、
サミ・パチェ。

教会機関誌

ジェニファー・マディー

イタリア、ローマの青少年は、
押し寄せるこの世の影響に
強く立ち向かっています。



ご った返した繁華街で、人々が足早に店を出入りし、手を振りながら友人にあいさつをしています。仕事場に向かいながら商売について話し合ったり、政治について意見を交わしたりしている人もいます。朝日を浴びて、子供たちは楽しそうに遊んでいます。

こんな光景が古代ローマの日常だったかもしれません。

ローマ帝国は、軍事的にも経済的にも圧倒的な力を持つ、強大な文明を築いていました。この国が没落するとだれが想像できたでしょうか。

しかし事実、ローマ帝国は崩壊しました。人々が権力と富をむさぼり、義にかなった生活をないがしろにしたため、帝国は内側から崩れていったのです。弱体化した国家は、周りの勢力により外側からも侵略され、やがて征服されました。

今日、^{こんにち}イタリア、ローマステークの若い男性と若い女性は、かつての帝国がそうであったように強く立っています。しかも、彼らは押し寄せる敵対者の影響力に対して揺らぐことなく、義にかなった生活を送りながら霊性を高めているのです。

ローマの宣教師たち

ローマ人への手紙の中で、使徒パウロはこのように語っています。「わたしは福音を恥としない。」(ローマ1:16) 今日ローマに住む末日聖徒の青少年は、福音を恥としていません。また、難しいときもありますが、自ら進んで信仰のために立ち上がっています。



古 代都市の
遺跡で有名な
ローマで、
末日聖徒の若者たちは
福音、強い友情、
高い標準を
土台とした人生を
築いています。



15歳のアリアナ・ヒボは言います。「わたしとは違う考え方の友達もいますが、皆わたしを尊重してくれます。」



アリアナに続いて、15歳のダリラ・バルデウもこう言っています。「友達は、わたしの話を聞いて、わたしがどういう人なのか理解しようとしてくれます。」

では、ダリラはどういう人なのでしょう。慌ただしいイタリアの首都で暮らす、数少ない末日聖徒の若者たちは、正直、熱意、親しみやすさ、義、福音に従って生活し、福音を伝えたいという心からの望み、といった特質を身に付けています。



16歳のサミ・パチェは執事定員会にいたとき、会長として奉仕しました。定員会ではただ一人の会員でした。「まだ友達のバプテスマを見たことはありませんが、伝道活動が大切だと学びました。わたしが住んでいる辺りでは、ほかに若い男性の教会員はいません。毎日、伝道活動について新しいことを学んでいます。」



15歳のデニース・デ・フェオにとってお兄さんは良い模範です。「兄は今伝道に出ていて、たくさんの経験をしています。良い経験ばかりではありませんが、いつも、それらの経験から学んだことを生かして教えています。それを聞くとうれしくなります。」



皆、ささいなことに見える奉仕や伝道活動によって、ほかの人々が良い影響を受けられることを知っています。17歳のダビデ・ボスコはこのように語ります。「聖文の中で、主はわたしたちに輝くようにとおっしゃっています(マタイ5:16参照)。大きなことではなく、小さな行いの中で輝きたいです。」

イタリアの若人の強さのために

ローマの若い会員たちは確かに輝いています。その輝き方は、古代の多くのローマ人とは大きく違ってきます。残念ながら、昔のローマの人々は不義な行いにふけり、その結果、道徳的に墮落してしまいました。一方、現代の青少年は高い標準を守り、神殿に参入することで、

「わたしとは違う考え方の
友達もいますが、皆わたしを
尊重してくれます。」

キリストの光を映し出し、
霊性を高めています。

デニースは、福音に従った生活をするので、現代社会の多くの問題から逃れられると考えています。また、福音のおかげで、どうすれば正しいことを選べるかも理解しています。「友達のだれもがしているからといって、いつも善いこととは限りません。中にはするべきではないこともあります」とデニースは確信をもって話しています。



14歳のリカルド・セレスティーニは、正しいことを選ぶようするとき、周りの助けを借りることが特に大切だと話しています。「自分独りでは大変だと感じる事が時々あります。そんなときは家族やほかの人の助けが必要です。」



そうした助けは、『若人の強さのために』からも得られます。この小冊子は様々な方法で青少年を助けてくれます。野球チームに所属している13歳のアンドリュウ・ビショップは、日曜日の練習や試合には行きません。

アリアンナも安息日の戒めを守るようにという勧告に従っています。彼女は陸上をしていて、日曜日に試合で走らなくてはならないことがよくありました。ついに、アリアンナは決めなければならないと思いました。こう話しています。「祈りました。決断するのはつらかったのですが、試合には出ずに教会に行くこと決めました。」

ダビデとリカルドにとって助けとなっているのは、正直についての勧告です。「学校では、カンニングをしたりほかの生徒の宿題を写したりするような誘惑に遭います。でも、誘惑に勝つことで、そういう人たちとは違った人間になることができます」とダビデは言います。また、正直について、「あまり大切でないと思われがちなの原則の一つですが、正直こそ違いを生み出すのです」と語りました。

リカルドは、スポーツをするときにも正直は大切だということを知っています。「フェアプレーをしていると、ごまかすことなくベストを尽くしているという気持ちになります。自分の成績に満足することができます。」

遠くでも、近くでも

彼らが満足していないことが一つあります。それは、神殿に参入できる回数です。イタリアには神殿がないため、ローマの教会員は車に乗り、片道約9時間をかけてスイスのベルン神殿まで旅をします。スイスまで行って死者のためのバプテスマを

「伝道活動が大切だと学びました。」



受ける機会は、そう頻繁には訪れません。神殿は遠くにありますが、参入したときに感じる特別な気持ちを忘れないようにすることで、彼らは神殿をいつも心に留め、近くに感じています。

「神殿にいるととても落ち着きます。入る度に少しずつ成長します」とサミは言います。

アンドリュウはこう話します。「神みたま殿で御霊をととても強く感じられるの

が何よりも好きです。先祖がわたしたちの助けに感謝してくれていることを知っています。わたしたちは先祖に贈り物をしているのです。」

ダリラもうなずきます。「わたしたちが先祖のため^{おこな}に行っていることが受け入れられていると感じ、とてもうれしいです。すばらしい経験です。」

アリアンナは全員の言葉をまとめて言いました。「みんなが言っていることはすべてほんとうです。神殿は地上にある神聖な場所です。スイスであろうとスペインであろうと問題ではありません。御霊はどこでも同じですし、参入する度にわたしたちは成長できます。」

今日のローマでは、古代の建物や階段、アーチの跡をあちこちで見ることができます。これらはかつて栄華を極めた都市の一部で、より強い勢力により破壊されてしまいました。一方、ローマの青少年たちは、福音、聖文、家族、標準、神殿という要素を人生に取り入れ、この世の悪い影響力^{あかし}に立ち向かうための強い証をはぐくんでいます。

サミはそのような強さを得るための方法を提案してくれました。「あきらめずに、前進しましょう。」■

「主はわたしたちに輝くようにとおっしゃっています。」





主に目を向けるなら、
主は、
この世のものしか
映っていなかった
わたしの限られた視野
を広げ、
永遠を見渡せるように
してくださいませ。

主に目を向ける

中央若い女性会長会第一顧問
メアリー・N・クック

夫とともにアジア地域で奉仕していたとき、わたしたちはよく、香港の自宅にほど近い湾仔峡ワンチャイシアの小道へウォーキングに出かけました。急な坂になっていて、登るのはきつく、特に蒸し暑い夏の日は大変でした。

ある土曜日、自分はこのウォーキングを楽しんでいないということに気がつきました。運動というより罰を受けているように感じられたのです。うつむいて、ずっと舗道を見ながら歩いてきたわたしは、頂上には絶対にたどり着け

ないような気になっていました。

その日、わたしは興味深い発見をしました。うつむいていたとき、わたしの視界は細くて長い舗道に限られていました。重い足取りの先に見えるのは舗道ばかりです。しかし顔を上げると、目の前には見事な景色が広がっていました。目に入って来たのは、鮮やかな黄色い花をつけた木々、美しいメロディーを奏でながら飛ぶ鳥たち、色鮮やかな扇をゆったりとしたリズムで広げ、日々の練習にいそむ太極拳レットウパクオの門弟たちです。間もなく目的地の司徒拔道シトウパツダウに着きました。そこから先は、輝く青空と白い綿雲が広がっていました。



主に目を向ける

うつむいたまま、狭い視野で自分の状況を見ていると、主が用意してくださっている多くの機会を見過ごしてしまうかもしれません。わたしたちは、状況のせいにして狭い視野にとどまりますか。それとも、視野を広げることがおできになる主に目を向けるでしょうか。

健康の問題、愛する人との別れ、事故、離婚、財政の危機など、難題はだれの人生にも訪れます。わたしたちは皆、予期せぬ困難に遭遇します。前向きに対処するのは並たいていことではありません。

『若人の強さのために』の中で、大管長会は次のように約束しています。「主は自分の力だけで築く以上の人生をあなたにもたらしてくださるでしょう。主はあなたの機会を増し、視野を広げ、あなたを強くしてください。また試練や問題に取り組むために必要な助けを与えてくださるでしょう。」¹

この原則を理解していたモーサヤの息子たちは、困難な

状況に直面したとき、主に目を向けました。アルマ書にはこう書いてあります。

「彼らは多くの苦難に遭い、……多くの霊的な労苦など、肉体的にも精神的にもひどく苦しんだ。

そして、彼らは荒れ野の中を幾日も旅をした。また彼らは、主が御霊の一部を授けて自分たちに伴わせてくださり、またとどめてくださることを願って、大いに断食し、大いに祈った。それは、彼らが神の手に使われる者となり、できれば自分たちの同胞であるレーマン人に真理を知らせ、彼らの先祖の正しくない言い伝えが不純であることを知らせるためであった。」(アルマ17:5, 9)

モーサヤの息子たちは、苦難ばかりに目を向けるより、神の御手に使われる者となって、ほかの人々を支え祝福する方法を探していました。主は、彼らの断食、祈り、信仰、働きにこたえ、困難な状況下で必要な助けを与えられました。



受け入れてくれるまで待つことはせず、
受け入れられる機会を探すことにしました。

勇気をもって

ソルトレーク神殿で夫と結び固められたとき、わたしは37歳でした。独身時代には、こうした状況になれば直面しなかったであろう多くの課題と向き合いました。わたしはずっと、25歳までには結婚し、出産したいと考えていました。しかし気がついてみると、計画とは随分異なる状況にいました。

舗道に視線を落とし、自分と、そして置かれている状況にばかり目を向けていたことが何度もありました。視野が狭くなっていました。人生はつらく、不公平に見えました。わたしは落胆し、自信を失っていました。

人生の大きな転機となった出来事を忘れることはありません。それは、モーサヤの息子たちのように、主に目を向けたときに起こりました。わたしはずっと活発に教会に集っていました。また「真理の知識」(1テモテ2:4。2テモテ3:7)も持っていました。しかし、さらに高い望みを持つことにしたのです。それまで以上に熱心に聖文を研究し、さらに祈り、御霊の導きを受けるによりふさわしく生活しようと決心しました。モーサヤの息子たちのように、「神の手に使われる者」になることを心から望みました。

「行って」新しい機会を探すには、「勇気を得[る必要がありました]」(アルマ17:12)。職業面での目標を定め、さらに良い条件で仕事に就けるよう大学院に進みました。また、独身者だけのワードから、いろいろな世代の人が集う一般のワードに移ることに決めました。皆と打ち解け、ファミリーピクニックや夕食会に参加し、成人のためのプログラムに出席しました。ワード聖歌隊にも加わりました。ピシヨップとも知り合いになりました。賢明で思いやりのある人で、わたしの人生で祝福となる召しを与えてくれました。

家庭訪問や扶助協会の活動を通してたくさんの女性と友達になり、ワードのいろいろな家族の活動によく参加させてもらいました。受け入れてくれるまで待つことはせず、受け入れられる機会を探すことにしました。彼らの子供たちの面倒を見ると自分から申し出たり、彼らを食事に招待したりしました。子供たちが自分の子供のように感じられました。

また、愛し、愛されるのに最適な場所は自分の家族にあるということも分かりました。弟には子供が3人おり、わたしは彼らの生活や学業、活動などに関心を持つようになりました。

自分に対する自信が増していきました。人のために行動していたからです。主に目を向けると、人生がさらに興味深く、充実したものになることに気づきました。湾仔峡を登りながら顔を上げたとき、木、花、鳥、人々を見ることができたのと同じように、主に目を向けたおかげで、人生の新たな機会が見えるようになりました。

いつも主に目を向けるなら、この世のものしか映っていないわたしの限られた視野を主が広げ、永遠を見渡せるようにしてくださるということを知りました。祈りの答えを通して、主がわたしを知り、愛し、わたしとわたしの状況を理解してくださっていることが分かるようになりました。これを知ったおかげでわたしは、主に目を向けながら機会を求めるとき、そして「[[自分が]どのような環境の下に置かれていても、正義と幸福を選ぶ」²ときに、主が引き続き、将来の試練や難題を乗り越えられるよう助けてくださるという信仰を得たのです。■

注

1 「若人の強さのために」42

2 「若人の強さのために」5

祝福を与えてくれた 初等協会の歌

ジェニファー・A・リン

音楽指導者の召しから益を得ることができる
とは思っていませんでした。

しかし実際は、あらゆる面で
益をもたらしてくれたのです。

「**彼**女は持って後1日でしょ
う。助かったとして
も目から下は

まひします。回復の
見込みはないで
しょう。」2004年
3月、医師から
わたしの家族に
伝えられた宣告
は絶望的な
ものでした。

わたしは30歳の若さで脳卒中に倒れ、話すことも、動くことも
できなくなりました。それでも、暗く孤独な時の中で、以前果
たしていた初等協会の音楽指導者としての召しが、わたしに
希望を与えてくれたのです。

わたしは昔から音楽を愛し、賛美歌の歌詞に力づけられ
てきました。それでも、脳卒中を起こす前、ワードの初等協会
音楽指導者に召されたときは、とても不安でした。
どうすれば子供たちの生活に良い影響を及ぼすこと
ができるだろうかと考えました。

絵／ベス・ホイッタカー、その他の説明のものを除く、「子供の歌集」の絵／フリス・ラッチ、リチャード・ハル





倒れる前まで、
ほんとうに
たくさんの
初等協会の歌を
歌っていました。
そして試練が
やって来たとき、
それらの歌がわたしの
支えになってくれている
ことが分かった
のです。

自分の受けた音楽教育から、わたしは、教えるときは目標を設定するというを学んでいました。ですから、子供たちが歌いながら御霊を感じられるように努めることを目標にしました。「ほくはむかし」¹といった歌と一緒に歌いながら教室で強く聖霊を感じたこと、そして子供たちが歌詞について、内容のある、思慮深い質問をしたことにとても驚きました。

アメリカ手話を使った歌の練習は、わたしのお気に入りの教授法でした。手話がどのように歌詞を表しているかを話し合うとき、子供たちは歌をもっとよく理解できることが分かりました。「イエス様のように」²を歌いながら、子供たちが手話で歌詞を

表すのを見るのはすばらしい経験でした。歌の伝えるメッセージが真実であると感じ、この教授法を用いることで子供たちは御霊を感じてくれているとしばしば思いました。自分の証が強くなるのが分かり、主から祝福されていると心から感じました。

音楽指導者として受けた祝福は、初等協会の教室だけにとどまりませんでした。召しを受けてから、日曜日に教えられるよう、家でも練習する必要が生じたのです。結果として、我が家の子供たちも初等協会の歌がもっと好きになりました。歌の歌詞は、傷ついている子供たちへの慰めとなったり、毎晩の子守唄となったりして、平安とやすらぎをもたらしてくれました。車に乗ると、子供たちは





いつも『子供の歌集』のCD³を聴きたいと言いました。たとえ、ほんの少し先の所に行くときもです。その結果、子供たちはたくさん歌を覚えるようになりました。

それでも、脳卒中を起こすまでは、初等協会の音楽が人生にどれほど大きな影響を及ぼしているかに気づくことはありませんでした。倒れる前まで、ほんとうにたくさんの初等協会の歌を歌っていました。そして試練が来たとき、それらの歌がわたしの支えになってくれていることが分かったのです。絶望の淵^{ふち}で、わたしは祈り、そして心の中で「子供のいのり」⁴を歌ったものです。1番の歌詞にある「お父様、子供たちの祈りを聞いてくださるの」と尋ねる子供のように叫び求めると、憐れみ深い主は、2番の歌詞にあるように、わたしが独りではないこと、主が確かにそばにいてくださるということを教え、安心させてくださったのです。どれほど大きな力を受け、自信を取り戻すことができたことでしょう!

闘病中、主人と子供たちは病室まで来てくれ、一緒に家庭の夕べを開き、度々「愛の言葉」⁵を歌いました。それは、わたしが初等協会で教えた最後の歌でした。わたしが教えたこの歌を、子供たちが歌っているのを聴き、すばらしい気持ちになりました。子供たちの歌声を聴きながら、歌に登場する、ひざまずいて祈る母親〔訳注——英語には、母親がひざまずいて祈るという歌詞がある〕を自分と重ねました(自分もひざまずくことができれば、とどれほど願ったことでしょう)。歌の中の母親と同じように、わたしも天の御父に嘆願していました。彼女と同じように、家庭に与えられた神権の権能に感謝していました。この気持ちを声にして家族に伝えることはできませんでしたが、初等協会の歌がその代役を務めてくれたのです。

倒れてから4年ほど過ぎたころ、わたしは医師が思ったよりはるかに多くの機能を取り戻していました。右腕が少し動くようになったおかげで、パソコンで文字を入力し、電動車いすを

操作できるようになりました。初等協会の召しを受けていたとき、初めてアメリカ手話を学びましたが、この手話を基にした方法でコミュニケーションを取れるようになりました。おかげで、今でも子供たちと一緒に初等協会の歌を「歌い」、家族や友人に気持ちを伝えることができます。

倒れる以前から、わたしは自分の子供のバプテスマ会で歌うつもりでいました。2005年8月、いちばん上のザックがバプテスマを受けました。わたしは、ピアノのいすに座れるよう主人に支えてもらいながら、「にじが好きです」⁶を右手で何とか弾くことができました。音楽を通じて、また息子のザックが理解できる方法で、わたしがバプテスマをどれほど大切に思っているかを伝えることができ、ほんとうにうれしかったです。

初等協会の音楽指導者になったばかりのころ、その召しから何か益を受けることになるとは思っていませんでした。しかし、実際は大変な益を受けたのです! 初等協会の歌のおかげで、福音の原則をさらによく理解し、証を強めることができました。家族と意思の疎通を図り、根気強く耐える力を頂くことができました。初等協会の歌の歌詞とメロディーは簡単なものかもしれませんが、1曲1曲には、確かに大切なメッセージと力が込められているのです。

わたしたちは、なぜ主が自分にこの割り当てを与えられたのか理解できないときもあります。それでも、主を信頼し、主を信じ、主から与えられる促しに信仰を持たなくてはなりません。倒れる前、初等協会音楽指導者であったことにとっても感謝しています! 今は歌えなくとも、それらの歌がわたしの持つ福音への思いを人々に伝えてくれています。自分の子供たちが初等協会の歌を歌うのを聴く度に、子供たちが証を強め、わたしと一緒に主を愛し、主の福音を愛することができるということを知っています。■

初等協会の
歌の歌詞と
メロディーは
簡単なもの
かもしれませんが、
1曲1曲には、確かに
大切なメッセージと力が
込められているのです。



注

1. 「ほくはむかし」『リアホナ』1999年4月号、F5
2. 『子供の歌集』40
3. アイテム番号 50177 300
4. 『子供の歌集』6
5. 『子供の歌集』102
6. 『子供の歌集』53

自分の役割を果たすなら、 後は神様がしてくださるのよ

ジェニー・ピデリト・デ・ラ・マサ

今 わたしはヤング
アダルトとして
教会に集っ
ていますが、これまで
ずっと、少女のころ
のある経験からとても
良い影響を受けてきました。
チリのレナイコという小さな町で
生まれ育ったわたしは、母親のル
ビーが初等協会の会長だったときの
ことを思い出すと温かい気持ちになりま
す。当時集っていた支部は小さく、初等協
会にはわたし一人しかいませんでした。ク
ラスの教師は母でした。日曜日の朝、教会に
行くと母はこう言うのです。「おはよう、ジェ
ニー。わたしがあなたの初等協会の先生よ。」
毎週この言葉を聞きました。開会のお祈りをし、
歌を歌い、続いて母がレッスンをしました。

教会にあまり熱心に集っていない子供たちのことを、母は愛情を込め
て「わたしのかわいい子供たち」と呼び、欠かすことなく訪問していまし
た。子供たちが通りで遊んでいるのを見かけると母は車を止め、「元
気？ 日曜日に教会で会いましょうね」と陽気に呼びかけたものでした。
ほとんどの子が「分かったよ」と答えるものの、実際日曜日に出席するの
は母とわたしだけでした。

教会に姿を見せない子供たちに、わたしは時々不満を感じました。
「ママ、もうやめようよ。あの子たちは来たくないのよ。」
わたしがそう言うと、母は優しい
口調でこう答えるのでした。



「受けた召しだから責任を持って果たすのよ。根気よく続けなくちゃ。」

ある日、信じられないことが起こりました。カルロスという少年が教会にやって来てこう言ったのです。「ルビー姉妹、ぼくは来るって言ったでしょ。」生徒の数がとりあえず二人になったことで、母の顔は喜びで輝きました。その日以来、カルロスがクラスに来る度に母はこう言いました。「ほらね。根気よく続ける必要があるのよ。そうすれば後は神様がしてくださるわ。」

ある日、カルロスはアレクシスという少年を連れて来るようになりました。わたしたち3人は一緒に遊ぶのが大好きになりました。友情は今でも続いています。その日を境に、教会に集う子供たちはどんどん増え始めました。

2年後に母は解任されましたが、そのころには35人の子供たちが毎週初等協会に出席して

いました。子供たちへの母の愛が報われるのを目の当たりにし、わたしの胸は躍りました。母の解任から10年以上がたち、今ではこの教会もずっと大きくなりました。それでも、35人もの子供たちが教会に来るようになったというほどの成果を上げた人はだれもいません。

今はわたしが初等協会の会長をしています。初等協会の幼い子供たちを心から愛しています。子供たちから多くのことを学んできました。このすばらしい召しと、根気よく続けることについて教えてくれた母の模範に心から感謝しています。天の御父は生きておられます。母が語った「自分の役割を果たすなら、後は神様がしてくださるのよ」という言葉が真実であることを知っています。■



子供たちが
遊んでいるのを
見かけると、
母は車を止め、
教会で会いましょう
と陽気に
呼びかけたものでした。



世代から

与えられた霊的な知識をどのように扱いますか。

教会機関誌

アダム・C・オルソン

モルモン書の最初の節を読んだことのある人は、グアテマラ・パチシアステーク、パチトルワードに集う17歳のファン・オールドニェスと15歳の妹のマイラについて、すでに多少は知っていると言ってもいいでしょう。

ファンとマイラ、そして7人の兄と姉は「善い両親から生まれ」ました。両親は子供たちに、一家の仕事である農業やトルティーヤ作りなど、暮らしていくために必要な技能を伝えるとともに、先祖の言語であるカクチケル語も教えてくれました。

しかし、彼らがニーファイの家族に似ているところはそれだけではありません。ファンとマイラの両親は、「神の慈しみと奥義」(1ニーファイ1:1)を子供たちに伝えることが、この世で生きていくための技術を伝えることと同じように大切であることを知っているのです。

リーハイやサライアのように福音を伝えてくれる両親のいない10代の子供はたくさんいますが(47ページ「自分自身で福音に従った生活をする」参照)、福音を伝えてくれる両親を持つファンやマイラには次のような課題があります。「自分はニーファイのように学んでいるだろうか。」「福音の真理に耳を傾け、生活に応用し、同じように後世に伝えていくことができるだろう

か。」「それともレーマンやレムエルのように、同じことを聞かされながら、自ら真理を見いだそうとせず、その結果、次の世代に伝えることができなくなってしまうのだろうか。』

どのように伝えるか

ファンは、物心つく前から父と一緒に農場で働いてきました。「子供たちは幼いころから、わたしについて来てくれました」と父親のホエルは話します。「最初は見て学び、それから力と能力に応じて、できる範囲で実践しながら学んでいきました。」

マイラも同じようにトルティーヤの作り方を学びました。最初のうちは母と姉たちが作るのを見ていましたが、お手伝いのできる年齢になると、一緒にトルティーヤ作りに加わるようになりました。

しかし、世代から世代へと伝えるものは、畑の耕作や種まき、トルティーヤ作りだけではありません。マイラの母のカルメラは、トルティーヤの生地を切り、形を整えながら、同時に娘の人格を形作ってきました。また、オールドニェス兄弟は耕作の準備をし、種を植え、畑を耕しながら、同じようにファンの心も育てていったのです。

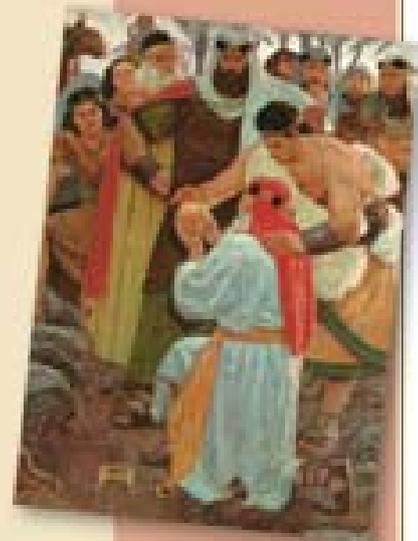
家族で一緒に過ごすことで、子供たちは両親の働く姿だけでなく、生き方も見ることができました。そして、両親はふさわしい機会が訪れると、仕事をしながら福音について話したのです。

しかし、見るだけでは十分ではないときがあります。実際に行っても不十分なときさえあります。モルモン書で最初に登場する家族はリーハイの家族ですが、レーマンとレムエルは、ニーファイが父から聞いたのと同じことを聞き、ニーファイと一緒に出て行って、父から頼まれたことまで行いました。それでも、何か大切なものが欠けていました。それはフアンとマイラが持っているもの、つまり学ぼうという望みです。

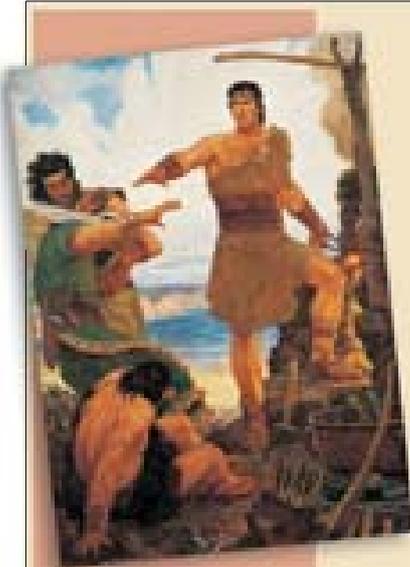


フアン(左下)とマイラ(左)は、両親から(左ページ)生きていくうえで物質的に大切なことだけでなく、霊的に大切なことも学んでいます。

世代へ



写真/アダム・C・オルソン。右下—「リアホナ」の一部、アノルド・フライバーク画



自ら
 学ばなければ、
 ファンもマイラも
 これらの大切なことを
 自分の子供たちに
 伝えることは
 できません。

どれほど熱心に求めていますか？

ファンとマイラは、パチシアというカクチケル族の住む地域に住んでいます。グアテマラシティーから数時間かかります。オールドニェス家族の作

るトルティーヤを買うお客さんや、畑の耕作を頼む人の多くがスペイン語を話さないため、ファンとマイラにとってカクチケル語を学ぶのは大切です。

しかし、皆がそのように感じているわけではありません。カクチケル語は学校の教科にはありません。この言葉は世代を超え、何百年にもわたって受け継がれてきましたが、どの世代にも、カクチケル語を学びたくない人や、学ぶ必要がないと考える人がたくさんいるのです。

知りたいという望みは大切ですが、それは言葉を学ぶことだけに限りません。リーハイは、家族の一人一人が、福音が真実であることを自分自身で知ってほしいと望んでいましたが、家族の全員がそう願ったわけではありませんでした(1ニーファイ8:12, 17-18参照)。ニーファイは



父親の言葉を聞き、父親から頼まれたことを行っただけでなく、自分自身で知りたいという望みを持っていました(1ニーファイ10:17参照)。レーマンとレムエルは、父の言うとおりにしたものの、しぶしぶ従っていましたが(1ニーファイ2:11-12参照)。二人は、「主はこんなことを



証を得る

「証は遺伝し〔ません〕。つまり、生まれながらにして証を持っているということはないのです。同様に、証は世代から世代へと自動的に受け継がれていくものではありません。……素晴らしい教師の模範がなければならぬのです。」

十二使徒定員会
 ロバート・D・ヘイルズ長老
 「信仰により教える」
 『リアホナ』2003年9月号, 15-16

我々に明らかにしてくださらない」と言い(1ニーファイ15:8-9参照)、自分で見いだすための努力を払うことには興味を示しませんでした。

世代の鎖を断ち切らない

子供が大きくなるにつれ、オールドニェス兄弟と姉妹は子供たちが耳を傾けてくれるだろうかと考えました。次のようなことについてしばしば考

えていたのです。「子供たちは従順になってくれるだろうか。」「ニーファイのように知りたいと願ってくれるだろうか。」「福音を自分自身の子供たちに伝えてくれるだろうか。」

その答えは、もうしばらく待たなければならぬかもしれません。しかし、オールドニェス夫妻には希望を持つだけの理由があります。

年上の子供たちは福音の真理を伝え始めています。そして年下の子供たちも福音を伝えることの大切さに気づき始めています。「両親からのアドバイスを受け入れるのは難しいときもあります。でも、両親の助けに感謝しています」とファンは話しています。

マイラはこう話します。「両親は、豆料理やト

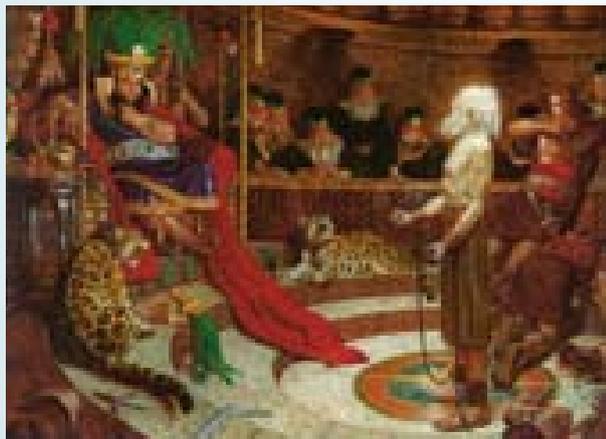


ルティーヤの作り方を教えてくれただけではありません。正しい道、つまり神に従うことを教えてくれました。」■

自分自身で福音に従った生活をする

親から福音を伝えてもらえなかった場合、どうすればよいでしょうか。親がまだ福音を受け入れていなかったり、福音に従って生活していなかったりする家庭もあるでしょう。家族の中で自分が最初の教会員であったり、ただ一人の活発な会員として福音生活を送ったりしているとき、孤独を感じるかもしれません。しかし、それはあなたが独りだということではないのです。

同じような状況にある人は教会の中にもいますし、聖文の中にも見いだすことができます。父アルマは若かったころ、アビナダイが教えた福音を受け入れた唯一の人物でした。真理を守ろうとしたため、町から追い出されました。しかし、アルマには福



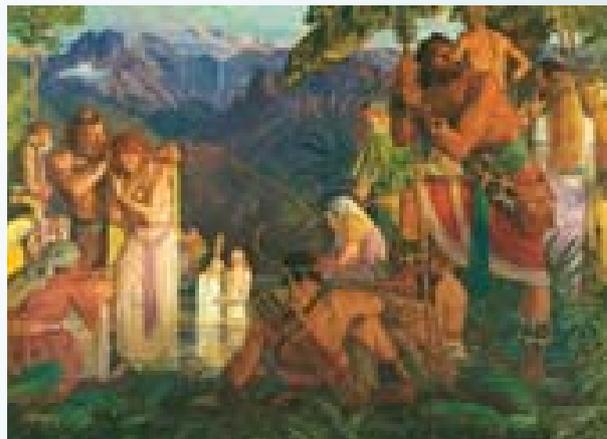
音に生き、福音を教えるだけの勇気があったので、間もなくほかの人々も信じるようになりました。アルマの子供たちは父親の信仰によって祝福され、これが、何世代にもわたる信仰の家族を築ききっかけとなりました。これらの人々の模範と指導は、教会にとって大きな力となったのです。

福音に従いながら孤独を感じている人がいるなら、元気を出してください。同じような状況にあった人が聖文の時代にいました。そしてあなたと同じような状況にいる人は、今もたくさんいるのです。

2006年10月の総大会で、七十人のポール・B・パイパー長老はこのように述べました。「第一世代がこ

れほど教会員総数の大きな部分を占めるのは、恐らく教会初期のころを除けば、ほかになかったのではないのでしょうか。皆さんの信仰と証は、ほかの人々にとって大きな力であり、祝福です。……

……第一世代の教会員として、皆さんは家族の中で大切な役割を担って[ます。] イエス・キリストの真の弟子として、皆さんは家族の模範です。彼らが教会員であろうとなかろうと、家庭で福音を実践するとき、周りの人は皆さんを通して救い主の愛を感じます。家族は、あなたが何か善いことをしているのは分かっています。たとえ彼らがそれを理解できなくても、またそれを受け入れるだけの信仰がなかったとしてもです。ですから、忍耐強く、



思いやり深くあってください。家族に仕える方法が分かるよう毎日祈ってください。主は、家族に良い影響を与えられるよう皆さんを助け、祝福してくださいます。常に正しく、義にかかった人物であることによって、信仰と義の模範となることができます。このような模範は皆さんの人生を形作りますが、さらに重要なのは、それが家族や子孫の標準になるということです。」「第一世代」『リアホナ』2006年11月号、11-12参照

ですから、あなたが1世の教会員であろうと5世の教会員であろうと、自分の生き方次第で、幾世代にもわたる長い鎖の最初となることも、また鎖の一つとして次につないでいくこともできるのです。鎖でつながった家族は、イエス・キリストの福音によって祝福を受けていくでしょう。



証を得る

我が家に『リアホナ』があることに感謝しています。疑問の多くは『リアホナ』を読むことで答えが見つかります。デビッド・A・ベドナー長老の「信仰によって学ぶ望みを持つ」(2007年9月号)という記事はとても役に立ちました。読んでみると御霊を感じ、答えを受けました。モルモン書に対する証を得るには、モルモン書について証をしなければならないということ、そうするなら、この書物が真実であると分かるよう、御霊が助けてくれることを知りました。
フィリピン、ゲネス・L・ナロナー

すべての人への3つのメッセージ

教会機関誌『リアホナ』に対し、日に日に感謝の念を強めています。わたしの人生で大事な役割を果たしてくれています。正しい選択ができるよう『リアホナ』に助けられたことは数え切れません。2007年4月号に掲載された「ヤングアダルトへの3つのメッセージ」の中で、アール・C・ティンギー長老は若人に活発に教会に集うように勧めています。今賢明な選択をすることで、将来のために備えるようにと助言しました。そうすれば困難な状況がやって来ても、どうしたらよいか分からずにうろたえるようなことなく、状況に対処する備えができるのです。この記事は教会

のヤングアダルトに向けて書かれたものです。わたしは55歳ですが、読んだときに、これはわたしのためにも書かれたのだと分かりました。

ウクライナ、オルガ・フリブコ

あの雑誌はいかがでしたか？

わたしの夫は、以前、毎月『リアホナ』をペルー全土に届ける仕事をしていました。配達の際、守衛所に勤務する教会員ではない人々と出会います。「そのトラックで何を配達しているんですか？」と聞かれると、主人は「『リアホナ』という、末日聖徒イエス・キリスト教会の機関誌です」と穏やかに答えていたそうです。

守衛の人たちは、好奇心から、それが何だかよく知りたがりでした。そこで主人は、そのような人にプレゼントできるように、いつも『リアホナ』を数冊多めに運んでいました。決まったルートでいつも配達していたので、同じ場所に戻って来ると、「あの雑誌はいかがでしたか？」と聞きます。そして読んだと言う人には、宣教師が訪問して教会について教えることができるよう、その人の名前を尋ねていました。

何年もたったある日、神殿から帰ろうとしていると、驚いたことに、主人は見覚えのある守衛所の人に会いました。その人はバプテスマを受け、愛する家族と永遠に結ばれるための準備をしているところでした。

とても興味深い記事を書いてくださる、愛する兄弟姉妹の皆さんに感謝します。『リアホナ』はわたしたち皆が進歩できるよう助けてくれます。読みながら、記事の一つ一つに心を動かされています。

ペルー、アナ・メサ・デ・エウロヒオ

悔い改めの大切さ

わたしは扶助協会で第4週目を担当する教師です。2007年5月号の『リアホナ』にある、ラッセル・M・ネルソン長老の「悔い改めと改心」という説教を基にレッスンをしたことがあります。準備をしているとき、悔い改めの大切さを学び、実感しました。

いつも『リアホナ』を心待ちにしています。『リアホナ』を通して多くのことを学び、感じるができます。

日本、匿名

『リアホナ』はわたしたちの導き手

34年以上も読んでいます。世界中の兄弟姉妹について、また彼らが福音に忠実に生きる姿について読むとよく涙があふれます。『リアホナ』の記事はどれも大好きですが、ジェフリー・R・ホルランド長老の「同性に引かれる問題に苦しむ人々を助ける」(2007年10月号)という記事に特に感謝しています。聖文とともに、『リアホナ』はわたしの家族を導いてくれます。

匿名



お便りをお寄せください。

電子メールの場合――

liahona@ldschurch.org

郵送の場合――

Liahona, Comment

50 E. North Temple St., Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

頂いたお便りは、一部を割愛したり平明な文に手直ししたりすることがありますので、あらかじめご了承ください。



複製は禁じます。©ARTBEATS

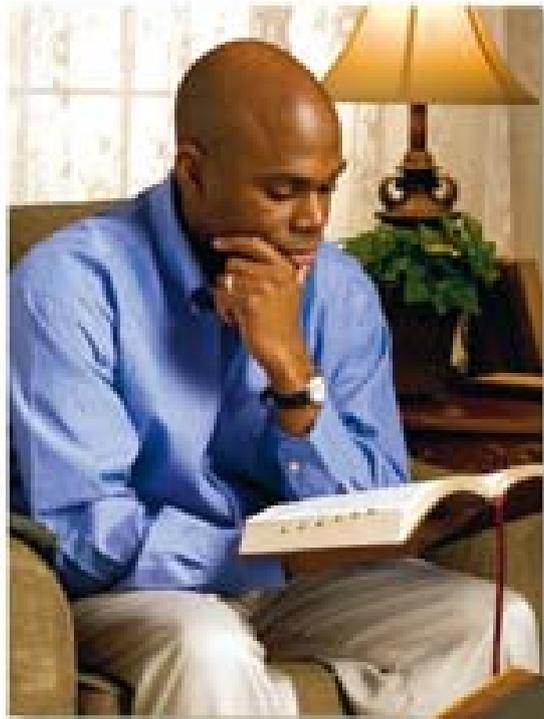
「幼い子供」 ジェイ・ブライアント・ワード画

紀元34年、バウンティフルの地に集まった人々を訪れられたイエス・キリストは、
「幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

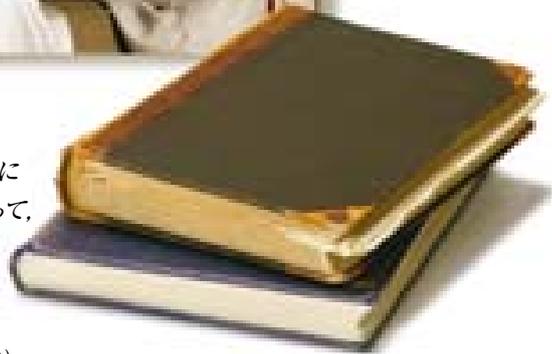
そして、イエスはこれを終えると、また涙を流された。

また、イエスは群衆に語って、『あなたがたの幼い子供たちを見なさい。』

(3ニーファイ 17：21 - 23)



主は
わたしたちに
「研究によって、
また信仰によって
学問を求めなさい」
と命じておられます
(教義と聖約88:118)。



この聖句を含め、聖文には学ぶことに関する聖句が140以上あります。学ぶ機会を最大限に活用するにはどうしたらよいでしょうか。「熱心に学ぶ力」16ページ参照